

令和6年度 第1回 湯沢市地方創生推進会議

日 時：令和6年8月1日（木）
午後2時
場 所：湯沢市役所 本庁舎4階
会議室 41

次 第

1. 開 会

2. 任命書交付

3. 副市長挨拶

4. 案 件

- (1) 第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について
- (2) 次期湯沢市総合戦略の策定方針（案）等について
- (3) その他

5. 閉 会

湯沢市地方創生推進会議 委員名簿

令和6年8月1日現在

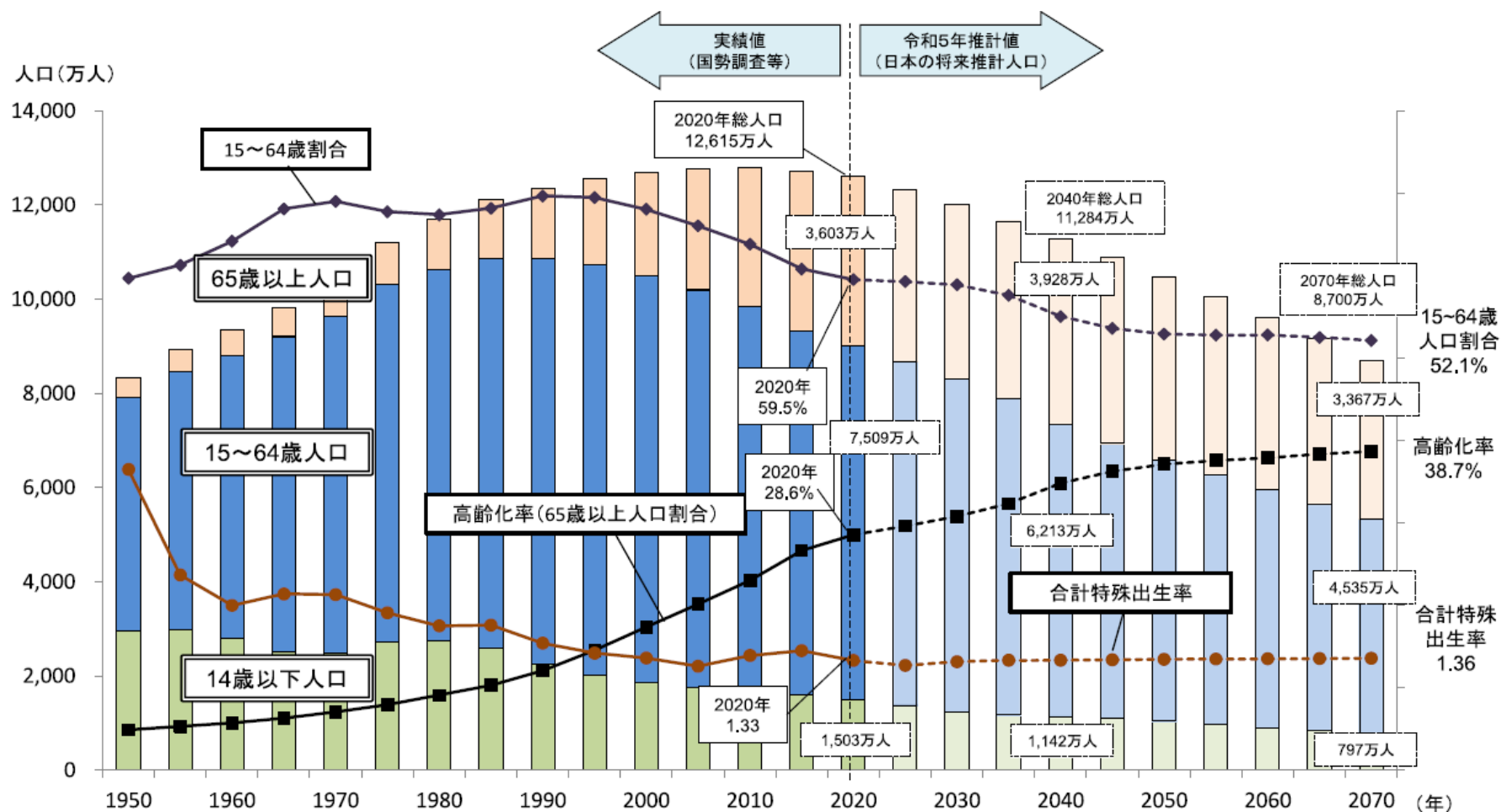
No.	氏名	所属	役職	区分
1	若 狭 誠 一 朗	湯沢商工会議所青年部	会長	産
2	阿 部 俊 介	ゆざわ小町商工会青年部	部長	
3	坂 本 伸	こまち農業協同組合・営農部米穀課	課長	
4	佐 藤 敏 洋	湯沢市観光物産協会	事務局長	
5	松 原 寛	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所	所長	官
6	斉 藤 貢 悦	湯沢公共職業安定所	所長	
7	吉 田 美 央	秋田県雄勝地域振興局総務企画部地域企画課	課長	
8	石 沢 真 貴	秋田大学教育文化学部	教授	学
9	小 西 暁	北都銀行湯沢支店	執行役員 支店長	金
10	山 下 知 之	秋田銀行湯沢支店	支店長	
11	岩 佐 真	連合秋田横手湯沢地域協議会	議長	労
12	久 間 田 稔	湯沢青年会議所	理事長	その他
13	高 橋 玲 子	合同会社Linpeace	代表	

資料 1

第 2 期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略
概要説明資料
2024.8.1

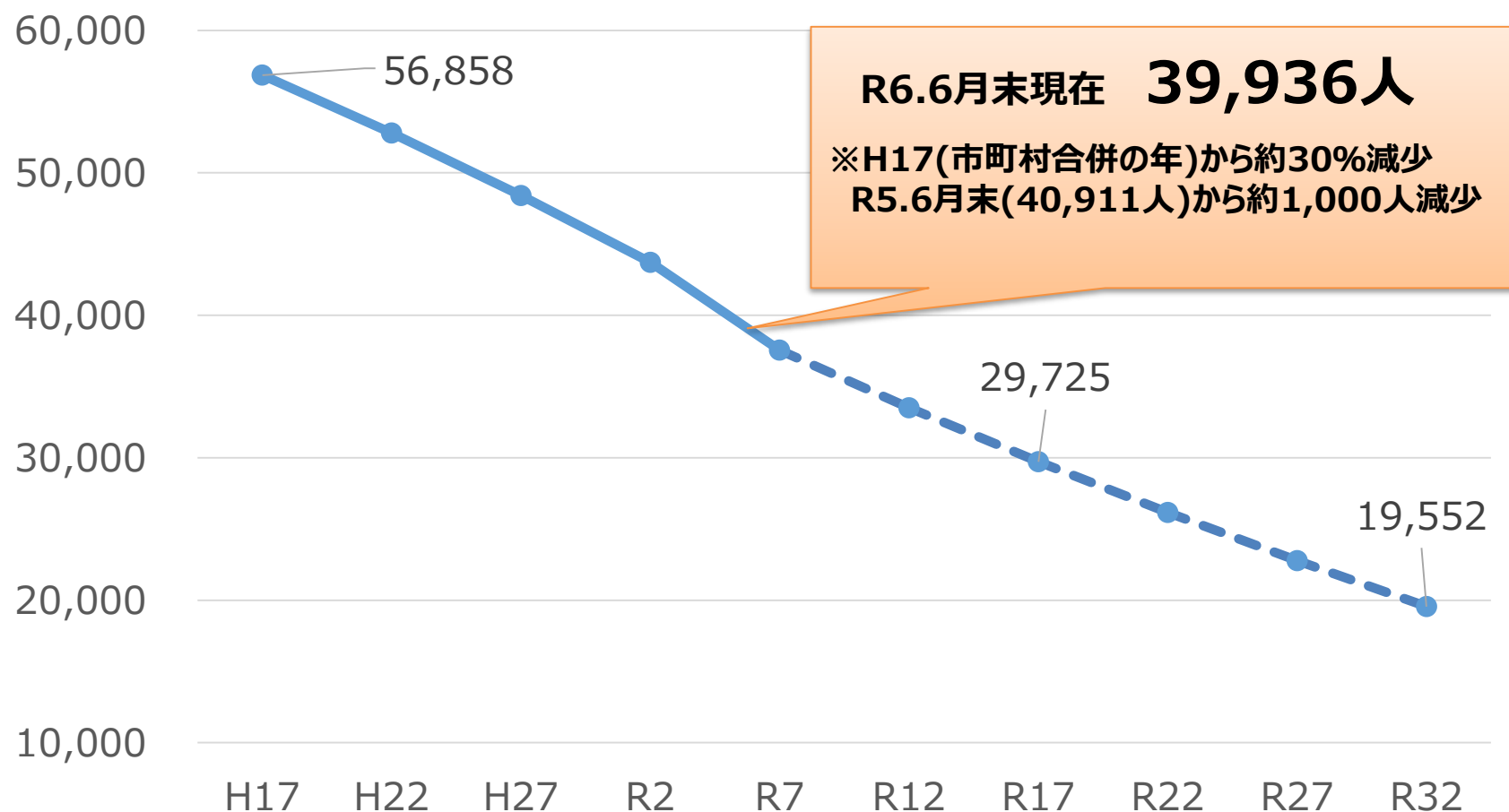
湯沢市総務部企画課

日本の人口動向



(出所) 2020年までの人口は総務省「国勢調査」、合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態統計」、
2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」「(出生中位(死亡中位)推計)」

湯沢市の人口



※H17～R6までは、各年6月末現在の数値

R7以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」の数値

「地方創生」の取組

平成26年 まち・ひと・しごと創生法制定、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定

- ①「東京一極集中」の是正、②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
- ③地域の特性に即した地域課題の解決



地方自治体においても、「地方版総合戦略」を策定して、「地方創生」の取組を推進



令和4年 「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が策定

- ①「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
 - ②デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化する。
 - ③これまでの地方創生の取組についても、改善を加えながら推進する。
- 地方自治体の「地方版総合戦略」も改訂が求められている。

戦略1 新たな人の流れ・仕事の創出

市の重要課題

若者等の人口流出により地域全体が疲弊し、産業や経済が縮小

取組方針

新たな人の流れをつくり、多様な人材との
交流による地域の活性化を目指します

アウトカム（将来的に目指す成果）

社会減±0の実現

（転入、転出者の均衡を保つ）

※H30 転出超過数 310人 → 目標 0人

取組み事項

- ①関係人口の創出・拡大
- ②移住・定住施策の推進・強化
- ③テレワーク等の普及・促進

戦略2 若者への未来投資による定住の促進

市の重要課題

地域社会との関わりや体験が乏しく、地元を離れる若者が増加

取組方針

次世代を担う若者が活躍する社会の実現を目指します

アウトカム（将来的に目指す成果）

社会減±0の実現 若者等の定住化促進

（若者の回帰促進、地元就職率向上、
地域全体で若者を育成する仕組み）

※H31.3 高校卒 県内就職率 約20%、県外就職 約10%
大学等進学率 約70%

取組み事項

- ①奨学金施策振興による若者の回帰促進
- ②中学生（高校生）を対象とした短期留学支援
- ③キャリア教育の振興等による地元愛の醸成

戦略3 結婚・出産・子育て支援の充実

市の重要課題

ライフスタイルの変化や将来への経済的不安による
晩婚化と少子化の進展

取組方針

地域社会における女性の立場や環境を改善し、
安心して子供を産み、育てやすい環境の充実を目指します

アウトカム（将来的に目指す成果）

合計特殊出生率の改善

（婚姻数、出生率の向上、子育て世帯の定住促進）

※R2 合計特殊出生率0.92 → 初期目標1.45

取組み事項

- ①出会いの機会創出と結婚支援の強化
- ②子育てニーズに応えるまちづくり
- ③情報発信・発信ツールの検討・見直し

令和6年度 第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況

【戦略1】 新たな人の流れ・仕事の創出に係る進捗状況

【重要業績評価指標（KPI）】	目標値	実績値						達成率
		R2	R3	R4	R5	R6	計	
・リビングラボプロジェクトによる取組	5 件	1 件	0 件	2 件	3 件	件	6 件	120.0%
・ゆざわローカルアカデミーの参加者	40 人	11 人	12 人	12 人	27 人	人	62 人	155.0%
・都市部からのワーケーション受け入れ企業	5 社	0 社	1 社	1 社	0 社	社	2 社	40.0%
・複業・兼業マッチング件数	10 件	0 件	0 件	0 件	0 件	件	0 件	0.0%

事業概要1. 関係人口の創出・拡大

<スケジュール実績>

多方面にわたる民間との協働・共創の推進	<計画>						<実績>					
	R2	R3	R4	R5	R6		R2	R3	R4	R5	R6	
(仮)湯沢リビングラボの設立	→						→					
(仮)湯沢リビングラボ運用開始	→	→	→	→	→		→	→	→	→		
都市部リビングラボとの連携（ワークショップによる課題共有）	→	→	→	→	→		→	→	→	→		
関係団体等との連携（ワークショップによる課題共有）	→	→	→	→	→		→	→	→	→		
共創型プロジェクトの実施		→	→	→	→		→	→	→	→		
重要業績評価指標（KPI）	目標値						実績値					
リビングラボプロジェクト → 5件		1	1	1	2		1	0	2	3		

<取組実績及び令和6年度取組概要>

【令和5年度取組実績】

①ゆざわリビングラボプロジェクト

・チビっ子アユつかみ及びカヌー体験

(R5.8.14 次世代を担う子どもを対象に、川魚との触れ合いやカヌー体験のほか、河川のパネル展を開催。

本市の豊かな自然環境の保全や河川美化の意識の醸成が目的。参加者約1,600人)

・横浜リビングラボとの意見交換やディスカッション

(R5.8.14 規格外農産物や海産物を利用しての商品開発や自然体験や地域の子どもたちが交流できる拠点の整備を検討。今後の関係人口の創出や相互関係の構築に向けて連携が目的。参加者10人)

・音楽イベント

(R5.12.9 「旧酒造会館」を会場に、市内の小学校・中学校・高等学校の吹奏楽や郷土芸能である和太鼓の演奏のほか、市内中学校による物産販売も行われ、地域と学生の交流などでにぎわった。参加者190人)

【令和6年度取組概要】

今年度も「チビっ子アユつかみ大会」を開催し、カヌー体験教室は2回に回数を増やし、次世代を担う子どもの豊かな自然環境の保全や河川美化の意識醸成を図る。また、当該体験教室に横浜リビングラボの会員や子どもたちを招待し、体験による交流促進、ワークショップによる相互理解を進める。更に、「旧酒造会館」を活用した、音楽イベントの他、ダンスイベント、市内学校的美術部の作品展示などを行い、地域活性化の起点を創出していく。



チビっ子アユつかみ大会及びカヌー体験の様子

事業概要2. 移住・定住施策の推進・強化

<スケジュール実績>

		<実施計画>				
移住・定住施策の積極的な推進		R2	R3	R4	R5	R6
ふるさと交流促進事業実施（ゆざわローカルアカデミー）		→	→	→	→	→
参加者コミュニティの構築（継続した関わり）		→	→	→	→	→
地域内の受入体制の強化（関係案内人・案内所）		→	→	→	→	→
受け皿となる中間支援組織の確立		→	→	→	→	→
重要業績評価指標（KPI）		目標値				
アカデミー参加者 → 40人		8	8	8	8	8

<実績>					
R2	R3	R4	R5	R6	
→	→	→	→	→	
→	→	→	→	→	
→	→	→	→	→	
→	→	→	→	→	
実績値					
11	12	12	27		

<取組実績及び令和6年度取組概要>

【令和5年度の取組概要】	
○ゆざわローカルアカデミーの開催	
【第5期生】参加者12人	
・募集説明会2回（R5.10.25、27 オンライン）	
・現地フィールドワーク2回	
①自然・有機栽培を巡る旅：R5.11.3～4 農業体験（自然栽培農学校園場）や講師から自然栽培の取組紹介	
②山歩きと溪流釣りを巡る旅：R5.11.4～5 漆器工房見学・フライ作製体験や山歩き・沢歩き（湯ノ又大滝付近）	
・報告会1回（R6.1.28 オンライン）	
【卒業生向け】参加者15人・現地フィールドワーク2回	
R5.7.22～23 農園での野菜収穫、漬物作り、お寺での写経、精進料理の体験、イワナ釣り体験など	
R5.12.16～17 いぶりがっこ製作見学、いんない咲良フェスタ参加、鴨猟見学、きりたんぼづくり体験など	
【令和6年度の取組概要】	
「ゆざわローカルアカデミー」については、対面型による現地フィールドワークを中心とした事業を継続し、これまでのアカデミー卒業生（1～5期生）との交流も含めて、継続した地域づくりに関わる関係人口の構築に向けた取組を推進していく。	

事業概要3. テレワーク・ワーケーションの普及・促進

<スケジュール実績>

		<実施計画>				
テレワーク・ワーケーション等の新たな働き方の提案		R2	R3	R4	R5	R6
ワーケーションアライアンスジャパン(WAJ)との連携による普及促進		→	→	→	→	→
テレワーク・ワーケーション受け入れ環境整備			→	→		
モニター受け入れ			→	→		
運用開始			→	→	→	→
重要業績評価指標（KPI）		目標値				
都市部からのワーケーション受け入れ企業 → 5社		1	1	1	1	1
複業・兼業マッチング件数 → 10件		1	2	2	2	3

<実績>					
R2	R3	R4	R5	R6	
→	→	→	→	→	
→	→	→	→	→	
	→	→	→	→	
	→	→	→	→	
実績値					
0	1	1	0		
0	0	0	0		

<取組実績及び令和6年度取組概要>

【令和5年度取組実績】	
①各種団体との情報交換	
・R5.5.12 デジ田交付金に係るトークセッションイベント	
・R5.8.30（水）令和5年度第1回あきた移住促進協議会「リモートワークで秋田暮らし推進部会」	
【あきた移住促進協議会テレワーク部会】	
・R5.10.11 Akita de Workation College セミナー	
【あきた移住促進協議会テレワーク部会】 【秋田ワーケーション推進協会】	
②課題解決型ワーケーションの推進	
内閣府が運営する官民連携推進のためのプラットフォーム（地方創生SDGs官民連携プラットフォーム）を活用し、同プラットフォームに登録している企業から課題解決の施策を提示してもらう取組を行った。	
【令和6年度取組概要】	
先進地視察や各団体との情報交換を実施し、ワーケーションの情報を収集するとともに、引き続き、地方創生SDGs官民連携プラットフォームを活用し、地域課題解決型ワーケーションを推進していく。	

【戦略2】若者への未来投資による定住の促進に係る進捗状況

【重要業績評価指標（KPI）】	目標値	実績値						達成率
		R2	R3	R4	R5	R6	計	
・地域全体で若者を育成するための未来ファンド（基金）の形成	1 件	0 件	0 件	0 件	0 件	件	0 件	0.0%
・就学支援者（湯沢市奨学金利用者）	20 人	10 人	8 人	13 人	19 人	人	50 人	250.0%
・留学支援者	30 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	0 社	0.0%
・キャリア教育の実施（中・高・大）	20 回	3 回	2 回	2 回	2 回	回	9 回	45.0%
・ふるさと納税を活用したGCFによる起業支援	3 件	0 件	0 件	0 件	0 件	件	0 件	0.0%

事業概要1. 奨学金施策振興による若者の回帰促進

<スケジュール実績>

		<実施計画>					<実績>				
		R2	R3	R4	R5	R6	R2	R3	R4	R5	R6
市産業等の活性化に貢献する高い志のある人材の確保											
①就学支援事業（新たな奨学金制度の創設）											
・	現行奨学金制度の拡充・実施	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
・	奨学金ニーズ調査	→					→				
・	出資企業意向調査	→					→				
・	新規奨学金事業詳細設計	→	→				→	→	→	→	→
・	未来ファンド（基金）形成・育成プログラム作成		→	→	→	→					
・	運用開始			→	→	→					
②奨学金返還助成金交付事業の拡充											
・	進路調査	→					→				
・	求人調査	→					→				
・	新規奨学金事業制度設計	→	→				→	→	→	→	→
・	運用開始		→	→	→	→					
重要業績評価指標（KPI）		目標値					実績値				
・	地域全体で若者を育成するための未来ファンド（基金）の形成	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・	就学支援者 → 20人（湯沢市奨学金利用者）	2	3	5	5	5	10	8	13	19	

<取組実績及び令和6年度取組概要>

【令和5年度取組実績】 ①奨学金返還助成による支援 ・支援期間を10年間とし、若い世代の定着に向けた取組を拡充 ・企業が従業員の返還額の一部又は全部を返還する代理返還制度も支給対象に拡充 ※住民登録のある69人を支援（助成額：3,397,172円 ※うち1件は代理返還事業所） ②湯沢市奨学金による就学支援 ・湯沢市奨学金による支援者 19人 （支援者の内訳：大学10人、短期大学8人、専門学校1人）
【令和6年度取組概要】 昨年度に引き続き、市内に定住し、企業に就労する方が、在学中に貸与を受けた奨学金に対して、その返還額を助成することにより、市内への定住促進を図っていく。

事業概要2. 中学生（高校生）を対象とした短期留学支援

<スケジュール実績>

		<実施計画>				
		R2	R3	R4	R5	R6
自ら未来を切り拓くグローバル人材の育成						
留学支援事業実施（試験的：スタートアップ）		→	→	→		
留学支援事業詳細設計		→	→	→		
未来ファンド（基金）形成・育成プログラム作成			→	→	→	→
運用開始					→	→
重要業績評価指標（KPI）		目標値				
留学支援者 → 30人		6	6	6	6	6

<実績>

R2	R3	R4	R5	R6
→	→	→	→	
実績値				
0	0	0	0	

<取組実績及び令和6年度取組概要>

【令和5年度取組実績】	
① 中学生を対象としたグローバル人材育成セミナー	
・ 国際教養大学との連携によりグローバルな視点を学ぶワークショップを開催	
参加者：中学生2人、高校生1人	
R5.9.15	オリエンテーション
R5.9.30	国際教養大学生との交流（大学生4人）：国際教養大学生から留学についてのお話
R5.10.15	英会話教室
R5.10.22	国際教養大学への留学生との交流（留学生4人）：院内駅横の会館にて、ピザ作りやゲーム交流など
【令和6年度取組概要】	
中学生、高校生が、国際教養大学生から留学体験などの話を聞くことにより、グローバルな視点を学んでもらい、新たな価値観の創造を目指した取組を進めていく。	

事業概要3. キャリア教育の振興等による地元企業就職者の確保

<スケジュール実績>

		<実施計画>				
		R2	R3	R4	R5	R6
産学官等の連携による人材育成						
実施に向けた学校との協議（中学校・高等学校）		→				
企業意向調査		→				
事業詳細設計		→	→			
運用開始			→	→	→	→
重要業績評価指標（KPI）		目標値				
キャリア教育の実施（中・高・大） → 20回		0	3	3	6	8
ふるさと納税を活用したGCFによる起業支援 → 3件		0	0	1	1	1

<実績>

R2	R3	R4	R5	R6
→				
→				
→	→	→	→	
実績値				
3	2	2	2	
0	0	0	0	

<取組実績及び令和6年度取組概要>

【令和5年度取組実績】	
○ ふるさと仕送り支援学生を対象としたキャリアデザイン事業	
進学で地元を離れた大学生等に対して、故郷湯沢の魅力再認識する機会を提供し、地元への愛着形成や関心を高めることを目的に実施。	
R5.11.23	「おいでよ！ランタン説明会」（オンライン：参加者10人）
	イベントの企画や事前準備
R6.1.2	湯沢ランタン祭り（参加者58人）
	ワークショップ「湯沢の未来に残したいもの」をテーマにグループトーク。
	ランタンにワークショップで考えた項目を中心に自由にランタンに記入し、リリースした。
【令和6年度取組概要】	
市出身学生の地元への関心を高めるため、対面型のオフラインによるきっかけづくり、動機付け支援を展開し、継続的なつながりの構築、地元への愛着促進を図る取組を展開していく。	
また、企業情報の提供や学生間による交流促進を図るため、ラインオープンチャット（約600名登録）の活用促進を図っていく。	

【戦略3】結婚・出産・子育て支援の充実に係る進捗状況

【重要業績評価指標（KPI）】	目標値	実績値						達成率
		R2	R3	R4	R5	R6	計	
・あきた結婚支援センターの加入促進（新規登録者／5箇年）	100 件	19 件	12 件	3 件	11 件	件	45 件	45.0%
・合計特殊出生率（R元年値1.04）	1.45 以上	1.16	1.01	0.97	0.95		0.95	65.5%
・子育て支援に係る満足度の向上（満足度の低い層の割合） ※指標設定の基準となる「子ども・子育て支援ニーズ調査」は5年ごとの調査であるため、参考値として「市民満足度調査」の結婚子育て関連項目の平均値を記載	20 %以下	19.1 %	15.8 %	16.3 %	16.6 %	%	- %	-
・子育て支援ポータルサイトPV数（現状値の維持）	150 PV	180 回	245 PV	270 PV	270 PV	PV	270 PV	180.0%

事業概要1. 出会いの機会創出と結婚支援の強化

<スケジュール実績>

<実施計画>

<実績>

出会いの機会創出と結婚支援		R2	R3	R4	R5	R6						
結婚支援コーディネーターの確保・育成		→	→	→	→	→	→	→	→	→		
結婚支援コーディネーターによる結婚支援		→	→	→	→	→	→	→	→	→		
独身者の交流促進		→	→	→	→	→	→	→	→	→		
結婚支援の充実		→	→	→	→	→	→	→	→	→		
重要業績評価指標（KPI）		目標値						実績値				
あきた結婚支援センターの加入促進 → 新規登録者を5箇年で100人		20	20	20	20	20		19	12	3	11	

<取組実績及び令和6年度取組概要>

【令和5年度取組実績】

- 結婚応援スキルアップセミナー及び婚活イベントの開催
 - ・スキルアップセミナー男女各4回（延べ男性30人、女性23人参加）
 - ・婚活イベント1回（男性6人、女性5人参加）
- あきた結婚支援センター入会金負担金
 - ・あきた結婚支援センター入会金助成による結婚支援（件数11件×@10,000円（2箇年））
- 結婚生活スタート応援事業
 - ・結婚する若い世代の支援として、30万円を上限に交付（件数6件 支援額2,104,000円）

【令和6年度取組概要】

結婚支援について、「結婚応援スキルアップセミナー及び婚活イベント」に替わる事業として、結婚を希望する独身の男女が結婚相談所を利用するために要する費用を補助する「婚活サポート補助金」を創設し、結婚に前向きな独身男女を後押しすることにより、婚姻数の増加を目指していく。

また、引き続き、「結婚生活スタート応援事業」により結婚する若い世代の経済的支援を行っていく。



メタバースを活用した婚活イベントの様子



事業概要2. 子育てニーズにこたえるまちづくり

<スケジュール実績>

		<実施計画>				
安心して子どもを産み育てることができる環境づくり		R2	R3	R4	R5	R6
出産おめでとう事業		→	→	→	→	→
子ども・子育て支援事業		→	→	→	→	→
ゆざわライフイベントサポート事業		→	→	→	→	→
子育て世帯の負担軽減施策		→	→	→	→	→
重要業績評価指標（KPI）		目標値				
合計特殊出生率 → 1.45以上を確保（R元年値1.04）		-	-	-	-	-
子育て支援に係る満足度の向上 → 満足度の低い層を20%以下に改善 ※指標設定の基準となる「子ども・子育て支援ニーズ調査」は5年ごとの調査であるため、参考値として「市民満足度調査」の結婚子育て関連項目の平均値を記載		-	-	-	-	-

<実績>					
R2	R3	R4	R5	R6	
→	→	→	→	→	
→	→	→	→	→	
→	→	→	→	→	
→	→	→	→	→	
実績値					
1.16	1.01	0.97	0.95		
19.1	15.8	16.3	16.6		

<取組実績及び令和6年度取組概要>

【令和5年度取組実績】	
①出産・子育て応援事業	・妊婦1人につき50,000円、生まれた子ども1人につき50,000円＋県給付金20,000円（計70,000円）を給付（出産応援給付金 81件、子育て応援給付金 112件）
・第3子以上の子育て世帯に対し、未就学の子どもに係る育児費用を年間15,000円まで助成（110世帯に助成）	
②子育てまるっと応援給付金給付事業（物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用）	・18歳以下の子どもを持つ世帯に対し、子ども1人につき20,000円を給付
③子育て世帯家事支援事業	・妊婦及び生後1歳までの子どもを育てている方や、家事や育児に困難があり支援が必要と思われる家庭を対象に委託事業所による家事支援を行った。
（産前・産後家事ヘルパー：9人に83回実施 子どもと家庭の自立応援訪問事業：1世帯に5回実施）	
④子ども・子育て支援事業	・延長保育事業、一時預かり事業、病児保育事業等による支援
⑤すこやか子育て支援事業	・第2子以降の保育料、ひとり親世帯の保育料、すべての子どもの副食費を無償化
⑥ゆざわ子育てマルっと応援DAYの開催	・地域と一体となって子育てを応援するイベントとして、ボランティアスタッフ39人（うち高校生19人）の協力を得て、年齢に合わせた遊び場では多世代が交流したほか、相談や育児に関する情報展示をし、400名を超える来場となった。同イベントでは、4年ぶりに子ども服のリサイクル「くるくるリサイクル市」も開催し、子育て世代の経済的負担の軽減を図った。
【令和6年度取組概要】	
小中学校の学校給食費の無償化を実施し、子育て世帯の経済的負担を軽減する。	
また、雄勝地域の4箇所の放課後児童クラブを集約した新たな施設の整備や、国が令和8年度に創設する予定の「こども誰でも通園制度」（保護者の就労要件を問わず誰でも通園可能とする制度）の試行的事業を実施する法人に対する運営費の助成等により、保護者が安心して子どもを預けられる環境を整備する。	
さらに、産後2週間健診の新設や、産後ケア事業の「日帰り型」の導入により、産婦へのケアの更なる充実を図る。	

事業概要3. 情報発信・発信ツールの検討・見直し

<スケジュール実績>

		<実施計画>				
SNS等による情報発信手段等の見直し		R2	R3	R4	R5	R6
ツールの検討		→				
加入促進PR		→				
講習会の開催		→				
運用開始		→	→	→	→	→
重要業績評価指標（KPI）		目標値				
子育て支援ポータルサイトPV数 → 現状値(150PV)の維持		-	-	-	-	-

<実績>					
R2	R3	R4	R5	R6	
→					
→					
→					
→	→	→	→	→	
実績値					
180	245	270	270		

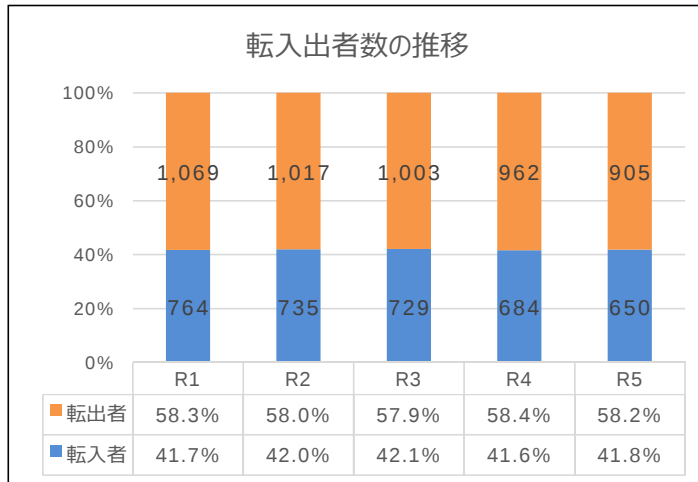
<取組実績及び令和6年度取組概要>

【令和5年度取組実績】	
①SNS等の活用による情報発信	市公式LINEの活用について、利用者のニーズに合わせた情報を発信する「セグメント配信」の導入や、子育て情報をまとめた「ゆざわ子育てナビ」への誘導など、子育て世代が必要とする情報を簡単に取得できるよう工夫をしている。
【令和6年度取組概要】	
LINEによる情報発信について、登録いただいている方に必要な情報がより伝わりやすくなるよう、LINEの管理を担当する情報政策課を含めて協議を行い、情報発信の強化を図る。	

数値目標及び重要業績評価指標(KPI)の実績

●数値目標

「2040 年までに転出超過状態にある社会減の段階的な均衡を図る。」



●重要業績評価指標(KPI)

重要業績評価指標(KPI)	現状		単位	単年度	実績値(上段:単年度/下段:累計)				目標値 R6	達成率 R5/R6
	年度	基準値		累計	R2	R3	R4	R5		
リビングラボプロジェクトによる取組	—	—	件	累計	1	0	2	3	5	120.0%
					1	1	3	6		
ゆざわローカルアカデミーの参加者	R1	7	人	累計	11	12	12	27	40	155.0%
					11	23	35	62		
都市部からのワーケーション受け入れ企業	—	—	社	累計	0	1	1	0	5	40.0%
					0	1	2	2		
複業・兼業マッチング件数	—	—	件	累計	0	0	0	0	10	0.0%
					0	0	0	0		
地域全体で若者を育成するための未来ファンド(基金)の形成	—	—	件	累計	0	0	0	0	1	0.0%
					0	0	0	0		
就学支援者(湯沢市奨学金利用者)	—	—	人	累計	10	8	13	19	20	250.0%
					10	18	31	50		
留学支援者	—	—	人	累計	0	0	0	0	30	0.0%
					0	0	0	0		
キャリア教育の実施(中・高・大)	—	—	回	累計	3	2	2	2	20	45.0%
					3	5	7	9		
ふるさと納税を活用したGCFによる起業支援	—	—	件	累計	0	0	0	0	3	0.0%
					0	0	0	0		
あきた結婚支援センターの加入促進(新規登録者/5箇年)	R1	71	件	累計	19	12	3	11	100	45.0%
					19	31	34	45		
合計特殊出生率	R1	1.04	—	単年度	1.16	1.01	0.97	0.95	1.45	65.5%
子育て支援に係る満足度の向上(満足度の低い層の改善)※	R1	24.6	%	単年度	【参考】 19.1	【参考】 15.8	【参考】 16.3	【参考】 16.6	20.0	-
子育て支援ポータルサイトPV数	R1	150	PV	単年度	180	245	270	270	150	180.0%

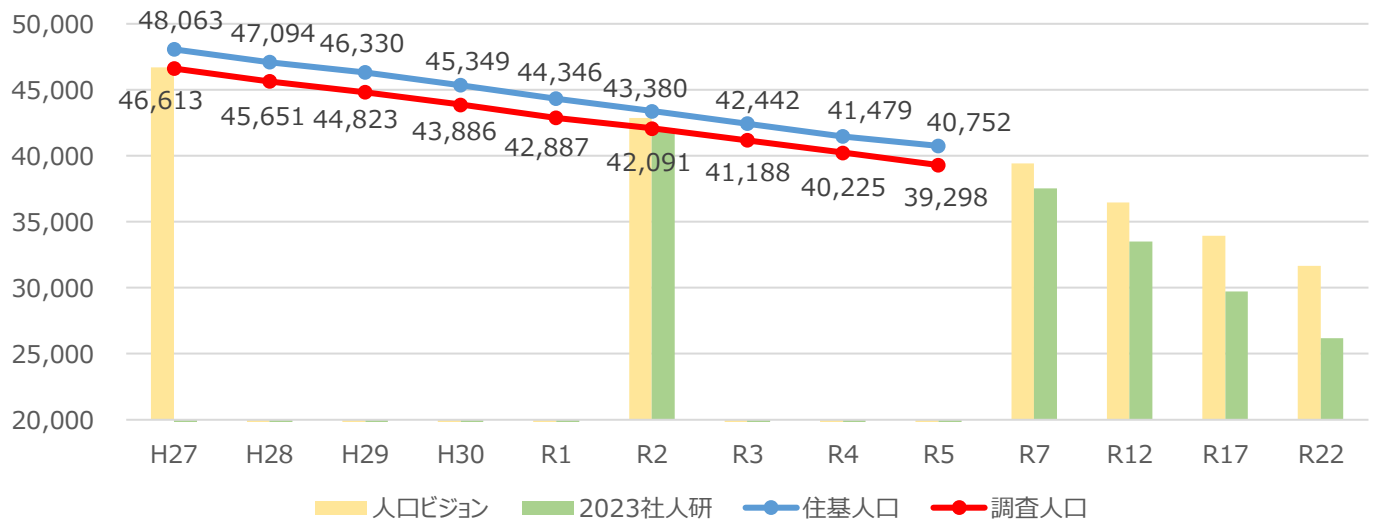
※指標設定の基準となる「子ども・子育て支援ニーズ調査」は5年ごとの調査であるため、参考値として「市民満足度調査」の結婚・子育て関連項目の平均値を記載

達成指標数

4/13

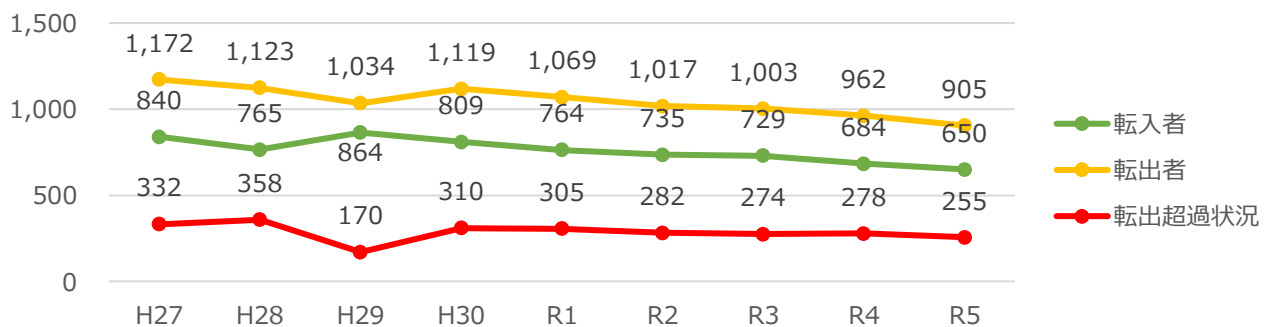
【参考資料】人口関連指標の推移

人口の推移



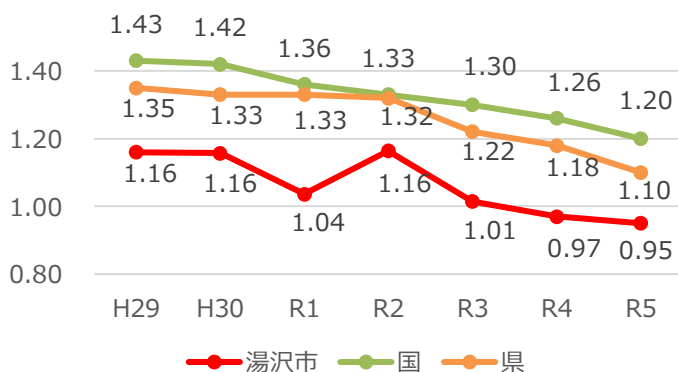
調査人口…国勢調査の年はその数値、それ以外は秋田県人口流動調査の10月1日時点の数値を使用

転入出者数の推移



年	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
転入者	840	765	864	809	764	735	729	684	650
転出者	1,172	1,123	1,034	1,119	1,069	1,017	1,003	962	905
転出超過状況	332	358	170	310	305	282	274	278	255

合計特殊出生率の推移



年	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
湯沢市	1.16	1.16	1.04	1.16	1.01	0.97	0.95
国	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30	1.26	1.20
県	1.35	1.33	1.33	1.32	1.22	1.18	1.10
出生数	203	187	159	164	141	125	119
女性人口	6,989	6,747	6,475	6,188	5,928	5,639	5,420

※女性人口は、毎年10月1日時点の15～49歳の女性人口

次期湯沢市総合戦略の 策定方針(案)

湯沢市総務部企画課

次期総合戦略の方向性

第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本的視点

移住・定住施策の促進、関係人口の創出・拡大をはじめとする人口減少に備えた施策の強化及び、若い世代への未来投資型人材育成施策の推進により、持続可能な「地域づくり」を目指す。

<数値目標> 2040年までに転出超過状態にある社会減の段階的な均衡を図る。



戦略1

新たな人の流れ・仕事の創出

- ① 関係人口の創出・拡大
- ② 移住・定住施策の推進・強化
- ③ テレワーク・ワーケーションの普及・促進



戦略2

若者への未来投資による定住の促進

- ① 奨学金施策振興による若者の回帰促進
- ② 中学生(高校生)を対象とした短期留学支援
- ③ キャリア教育の振興等による地元愛の醸成



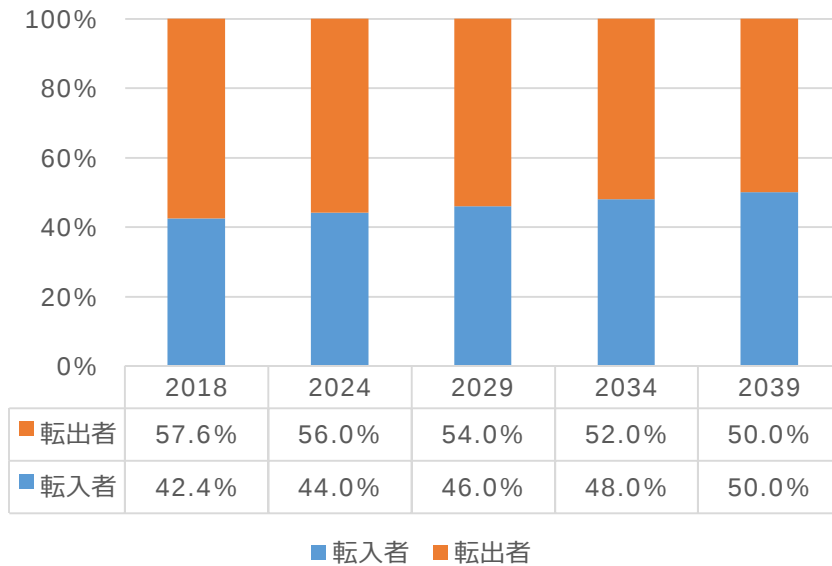
戦略3

結婚・出産・子育て支援の充実

- ① 出会いの機会創出と結婚支援の強化
- ② 子育てニーズに応えるまちづくり
- ③ 情報発信・発信ツールの検討・見直し

第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略

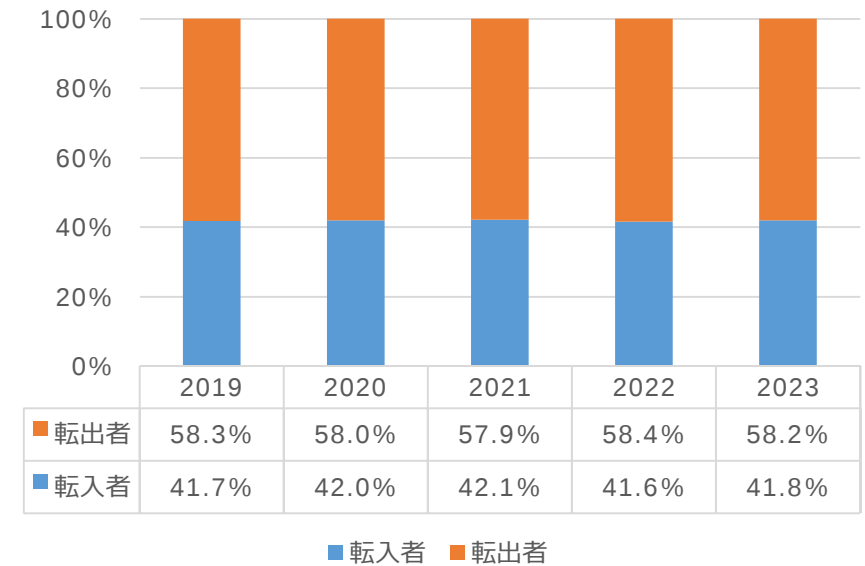
＜数値目標＞



出典：湯沢市人口ビジョン

2040年までに転出超過状態にある社会減の段階的な均衡を図る。

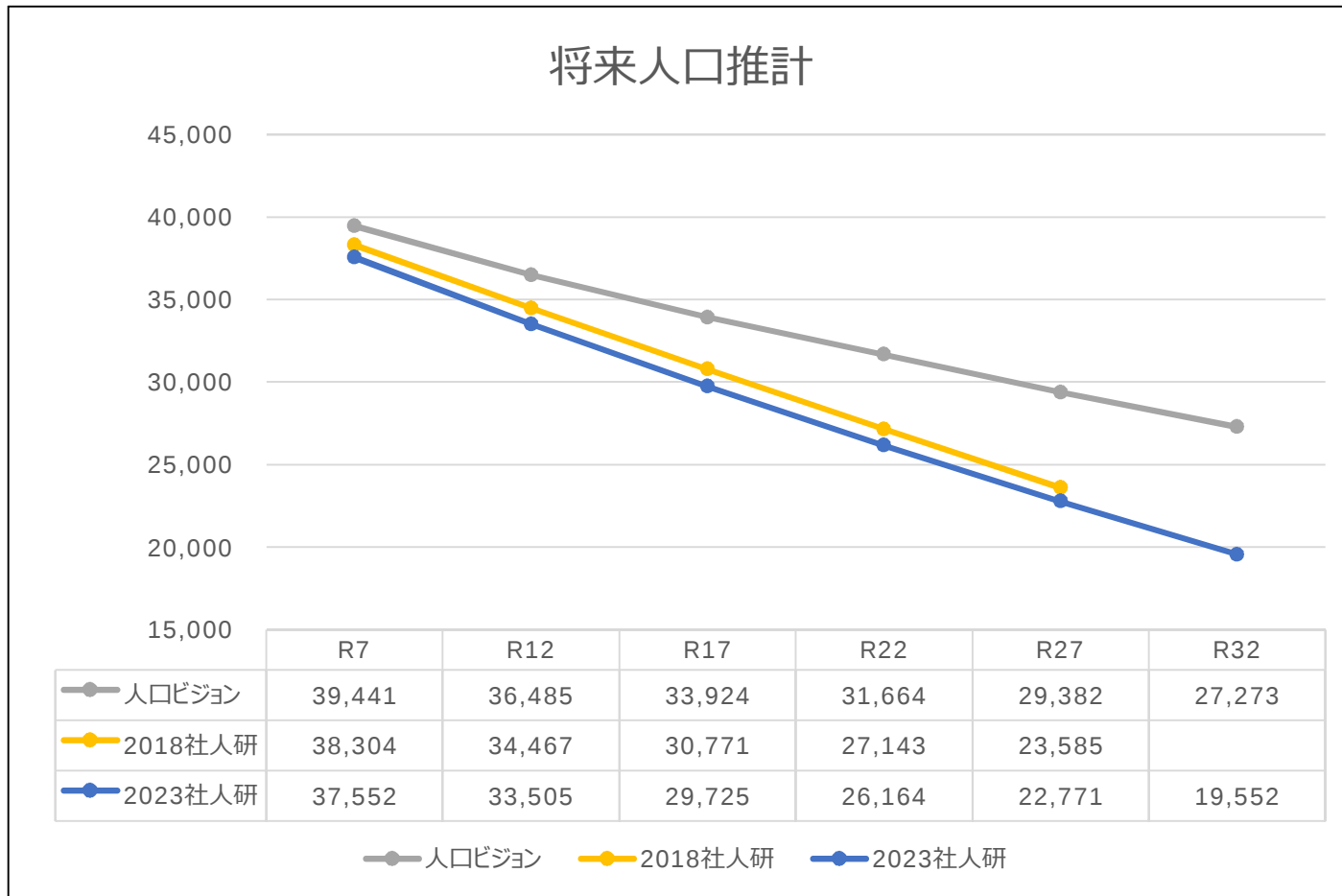
＜実績＞



出典：湯沢市「住民基本台帳年報」

第2期総合戦略の計画期間中において、転出超過状態にある社会減の改善は見られなかった。

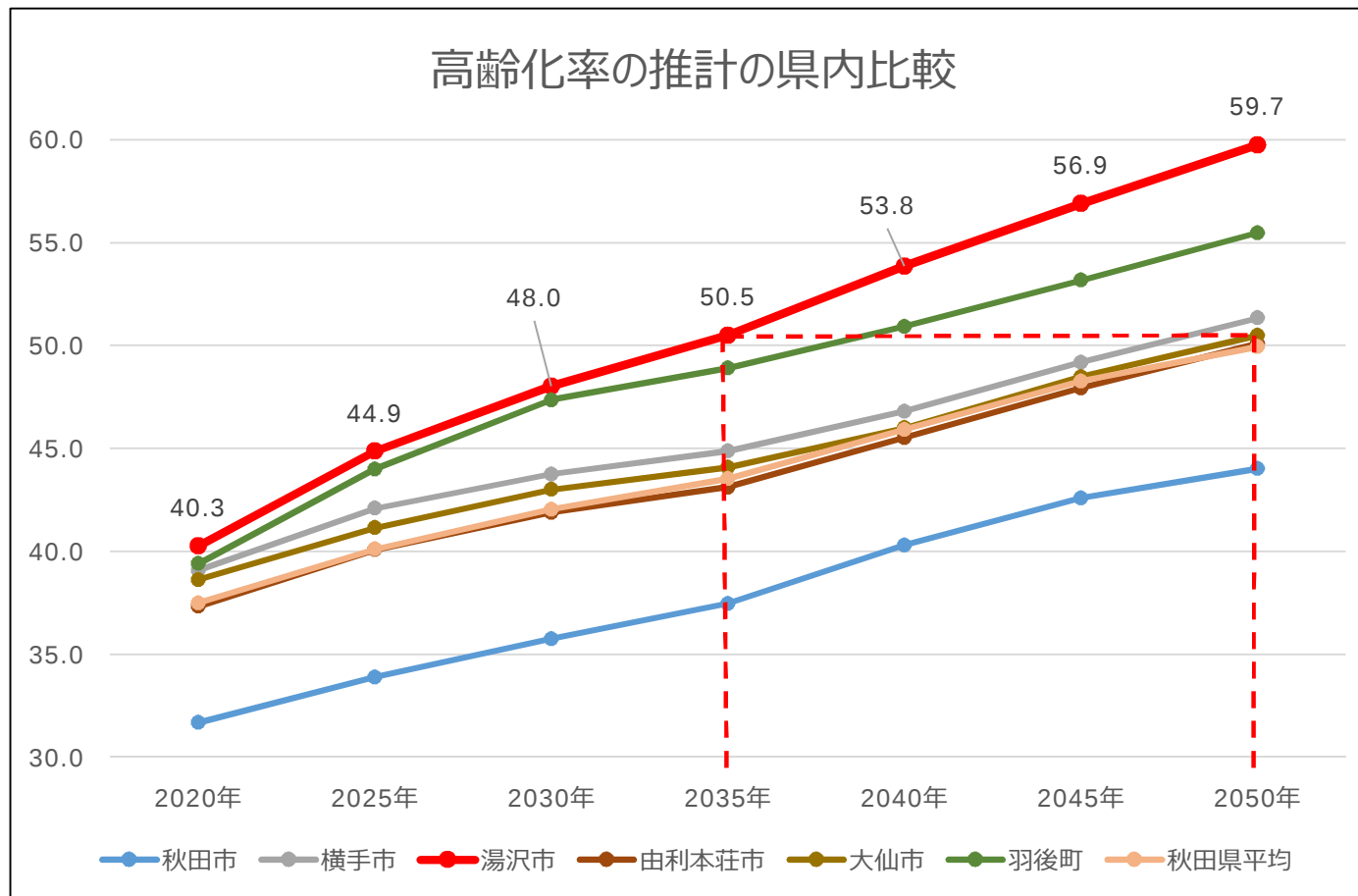
将来人口の推計



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

最新の2023年の社人研の人口推計は、5年前の2018年の推計をさらに下回り、現在の湯沢市人口ビジョンの推計を大きく下回っている。

将来人口の推計



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

2035年の湯沢市の高齢化率の水準は、県平均や横手市・由利本荘市・大仙市の2050年の水準と同程度であると推測されている。

→湯沢市は県内でも少子高齢化が早く進行すると推測されている。

ウェルビーイング

=「**身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること**」

「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること。」(WHO)

(参考)世界幸福度報告(2023)

- 日本の幸福度は47位
- 指標のうち「1人当たりGDP」や「健康寿命」などは相対的に高いが、「他者への寛容性」や「人生の選択自由度」といった指標が低い傾向にある。

■ 第212回国会(2023年)における岸田内閣総理大臣所信表明演説

持続的な賃上げに加えて、人々のやる気、希望、社会の豊かさといったいわゆる「ウェルビーイング」を拡(ひろ)げれば、この令和の時代において再び、日本国民が「明日は今日より良くなる」と信じることができるようになる。日本国民が「明日は今日より良くなる」と信じられる時代を実現します。

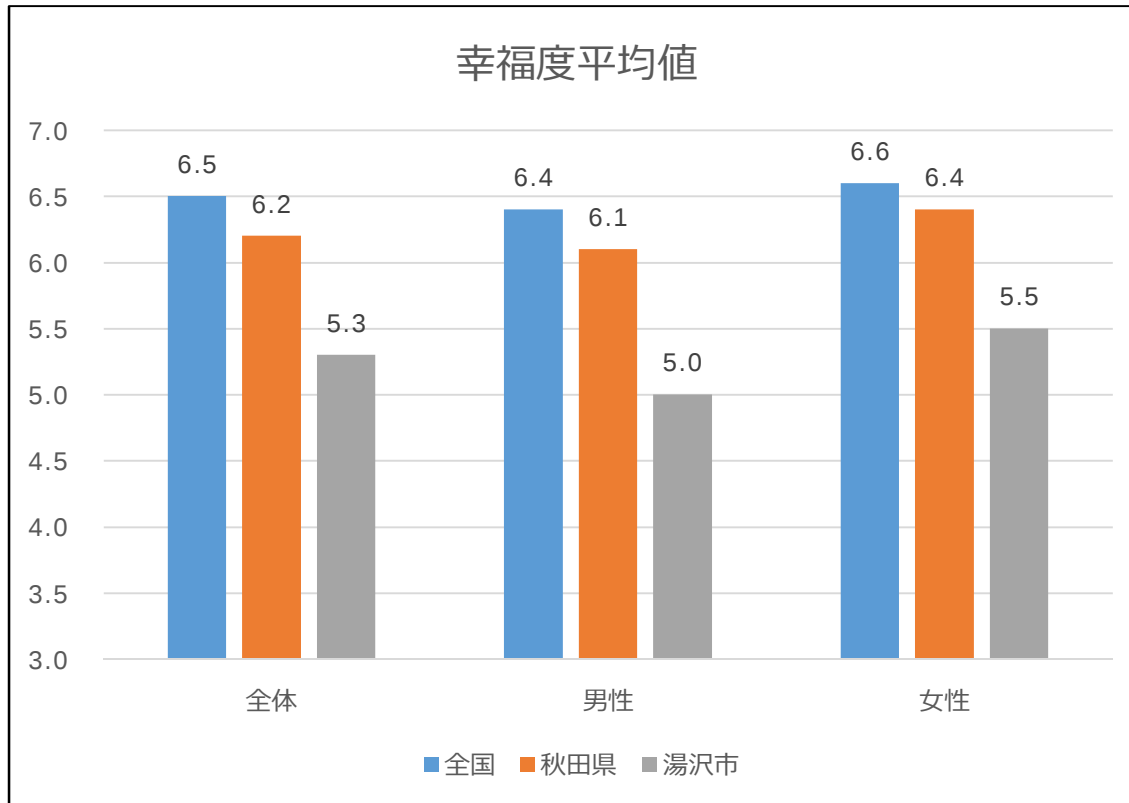
■ 経済財政運営と改革の基本方針(骨太方針)2023

...EBPMの裾野の拡大が図られる中、その成果も踏まえ、経済・財政一体改革のこれまでの取組を通じて十分に進捗していない重要課題に関する評価・分析を進めるとともに、予算規模・政策体系等を踏まえてメリハリのあるPDCAを実行し、本年末に新経済・財政再生計画改革工程表を改定する。その改定に当たっては、防衛、GX、こども政策を始め、新たな拡充を要する課題について、効果的・効率的な支出の徹底を図るべくエビデンスに基づくPDCAを早急に構築する。加えて、政府の各種の基本計画等におけるKPIへのWell-being指標の導入を加速するとともに、こどもに着目した指標の在り方について検討する。さらに、地方自治体におけるWell-being指標の活用を促進する。

■ デジタル田園都市国家構想

「地域幸福度(Well-Being)指標」(一般社団法人スマートシティ・インスティテュート)をデジタル田園都市国家構想における指標として正式採用。デジタル田園都市国家構想交付金TYPE2/3においては、地域住民等のWell-Beingの向上を図るモデルケースであることが要件とされている。

湯沢市民の幸福度



<出典>

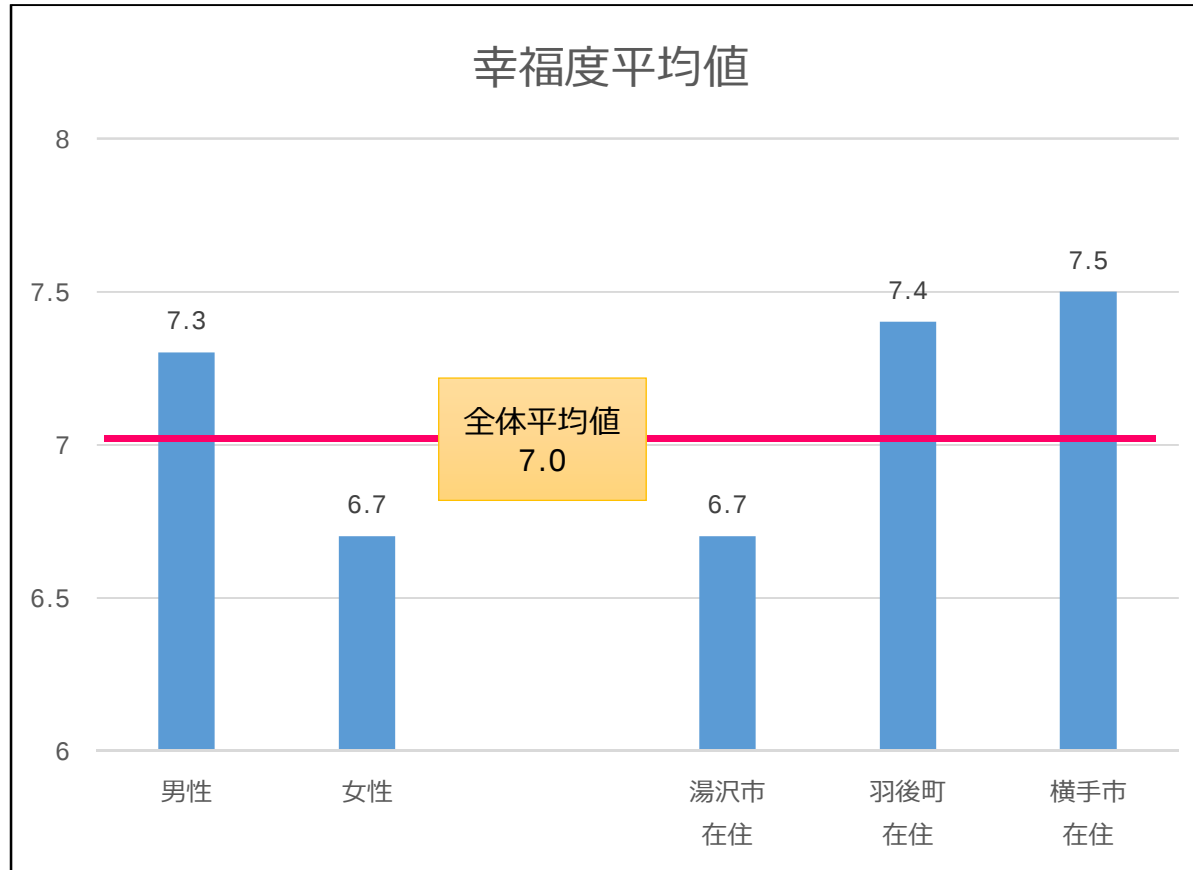
- 全国、秋田県：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」（令和5年度版全国調査）
- 湯沢市：令和6年度市民満足度調査
- いずれの調査についても、現在どの程度幸せを感じるかについて、10点満点で回答

<サンプル数>

- 全国：84,965人
- 秋田県：595人
- 湯沢市：473人

- ・ 湯沢市民の幸福度は、全国平均と比べて1.2ポイント、秋田県平均と比べて0.9ポイント低い。
- ・ 女性に比べて男性の幸福度が低いのは、全国的に共通している。

高校生の幸福度



高校3年生に対するアンケート

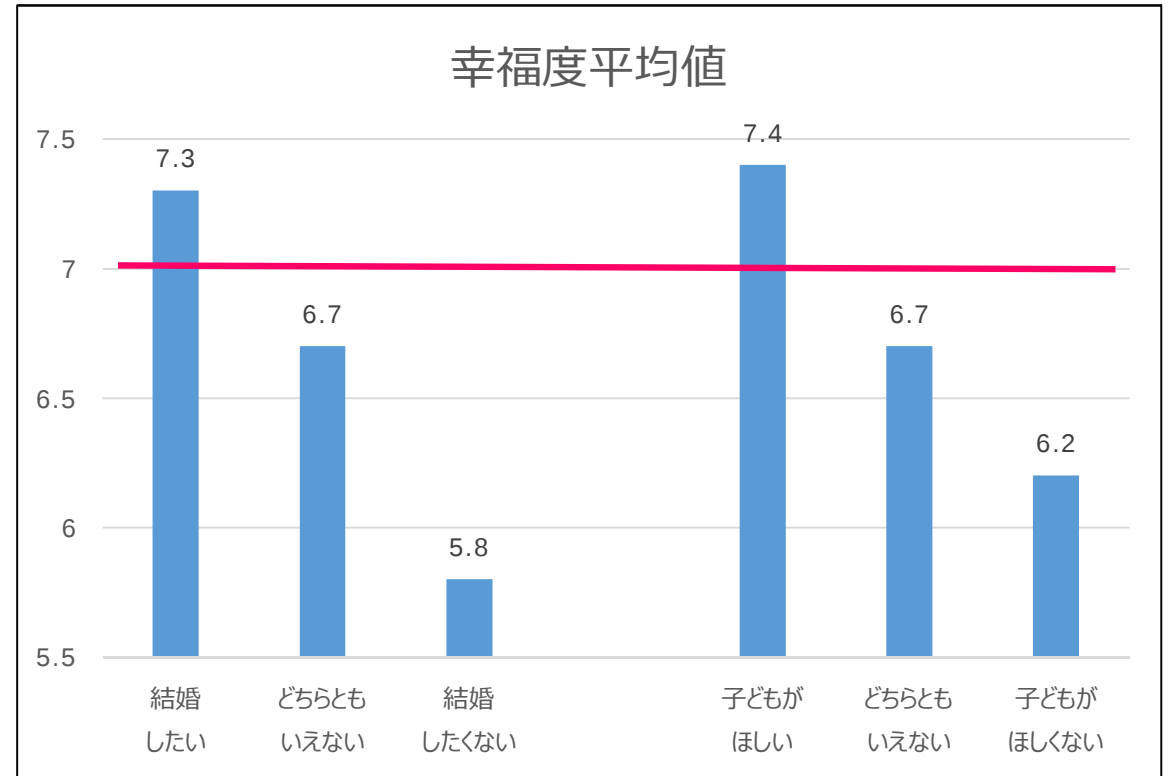
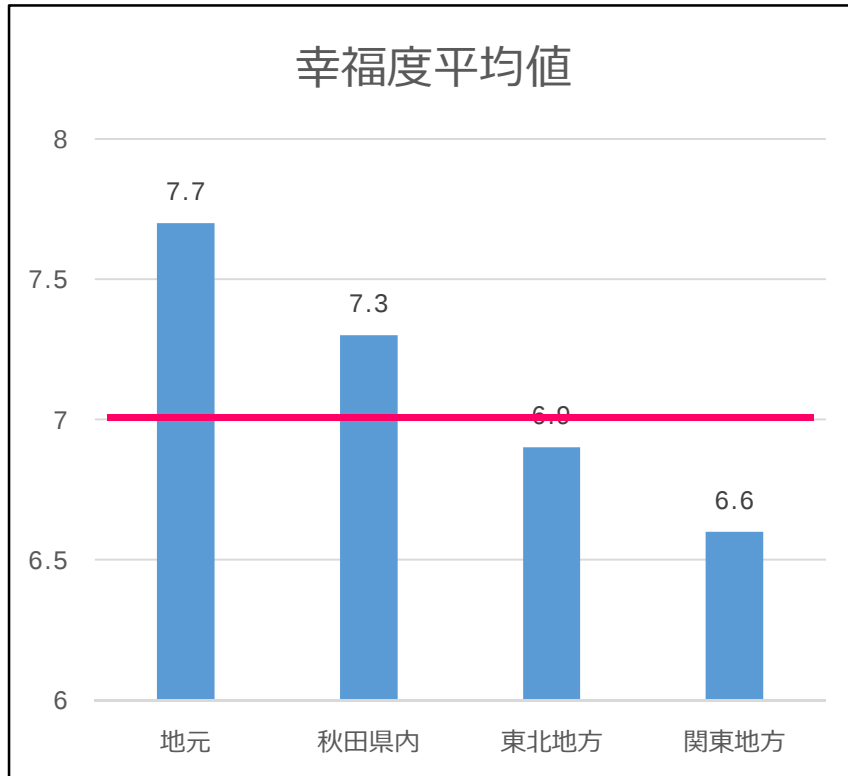
- 令和6年5月実施
- 市内所在の高校（湯沢高校、湯沢翔北高校、湯沢翔北高校雄勝校）3年生を対象→305人から回答
- 現在どの程度幸せを感じるかについて、10点満点で回答

<サンプル数>

- 男性：152人
- 女性：145人
- 湯沢市在住：164人
- 羽後町在住：49人
- 横手市在住：83人

- ・ 男性に比べて女性の幸福度が低い(↔全国的な傾向は、全年代で男性に比べて女性の幸福度が高い)。
- ・ 湯沢市在住の生徒は、羽後町・横手市在住の生徒に比べて幸福度が低い。

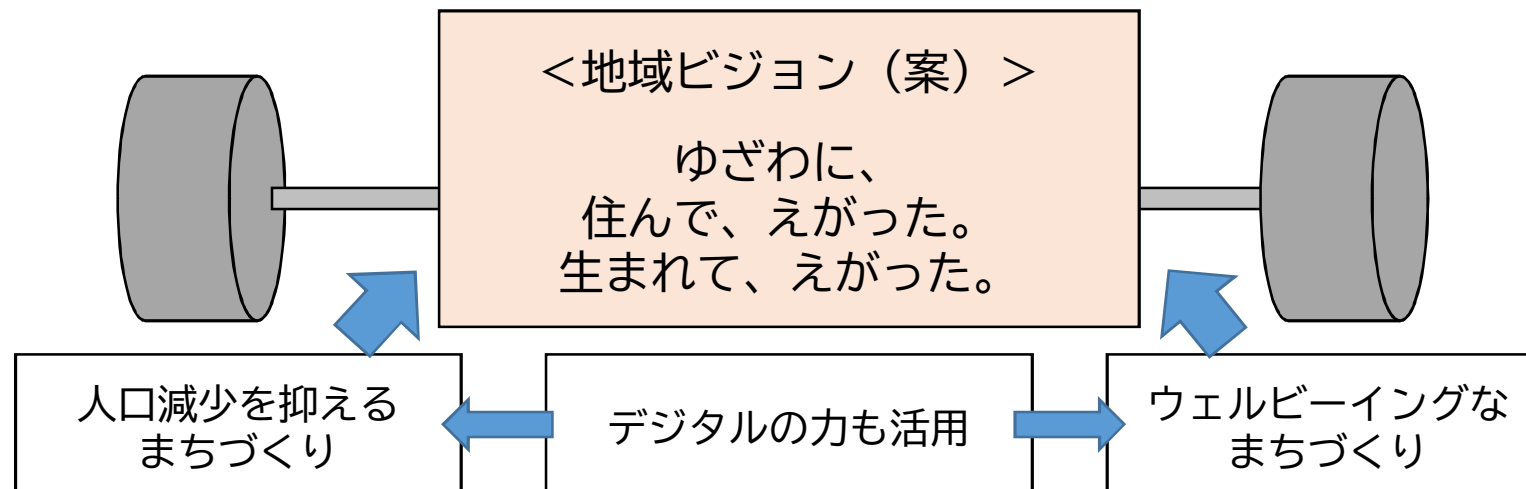
高校生の幸福度



- 将来住みたい場所について、「地元」と回答した生徒は幸福度が高い傾向にあり、「地元」から遠い地域を回答した生徒ほど幸福度が低い傾向にある。
- 「結婚したい」「子どもがほしい」と回答した生徒は幸福度が高い傾向にあり、「結婚したくない」「子どもがほしくない」と回答した生徒は幸福度が低い傾向にある。

次期総合戦略の方向性（案）

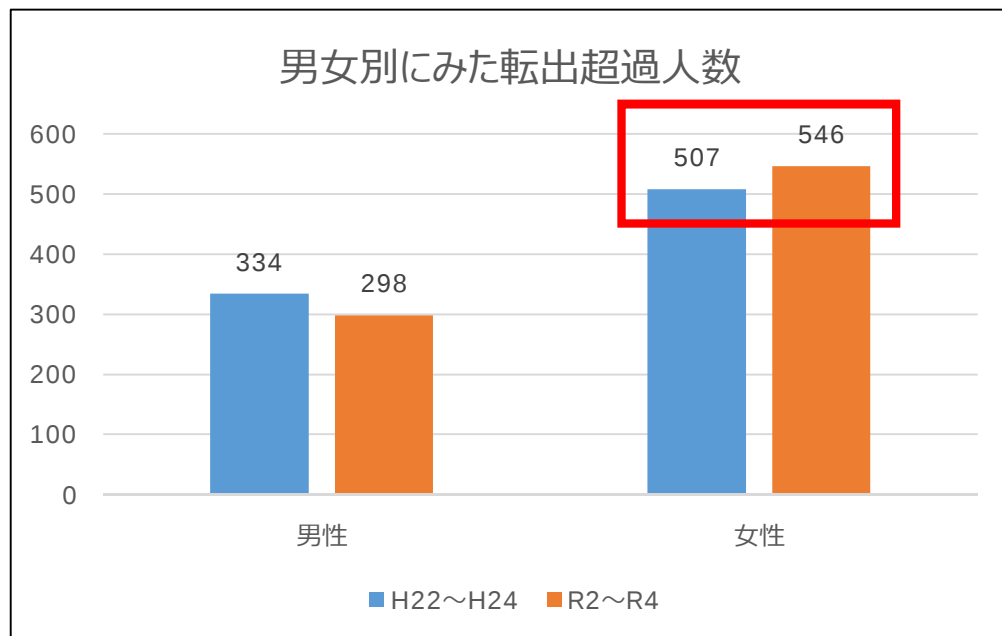
- ◆ 第2期総合戦略は、移住・定住施策の推進や若者世代の回帰促進に向けた未来投資等による「社会減の改善」と、結婚・出産・子育て支援策の推進による「自然減の改善」を図ることにより、「人口減少を抑えるまちづくり」を行うことに特化した戦略となっている。
- ◆ 地域社会の活力を維持するためには、湯沢市を「より多くの人々が暮らすまち」としていくために、「人口減少を抑えるまちづくり」は引き続き重要である。
- ◆ 一方で、今後も人口減少の流れは現実的に避けられないことから、今後は市民一人ひとりの活力を高めるため「市民一人ひとりが心豊かで幸せに暮らせるまち」を目指す「ウェルビーイングなまちづくり」をより一層推進する必要がある。
- ◆ 次期総合戦略は、この「人口減少を抑えるまちづくり」と「ウェルビーイングなまちづくり」を両輪として、デジタルの力も活用しながら、地域ビジョン「ゆざわに、住んで、えがった。生まれて、えがった。」の実現を目指す戦略とする。



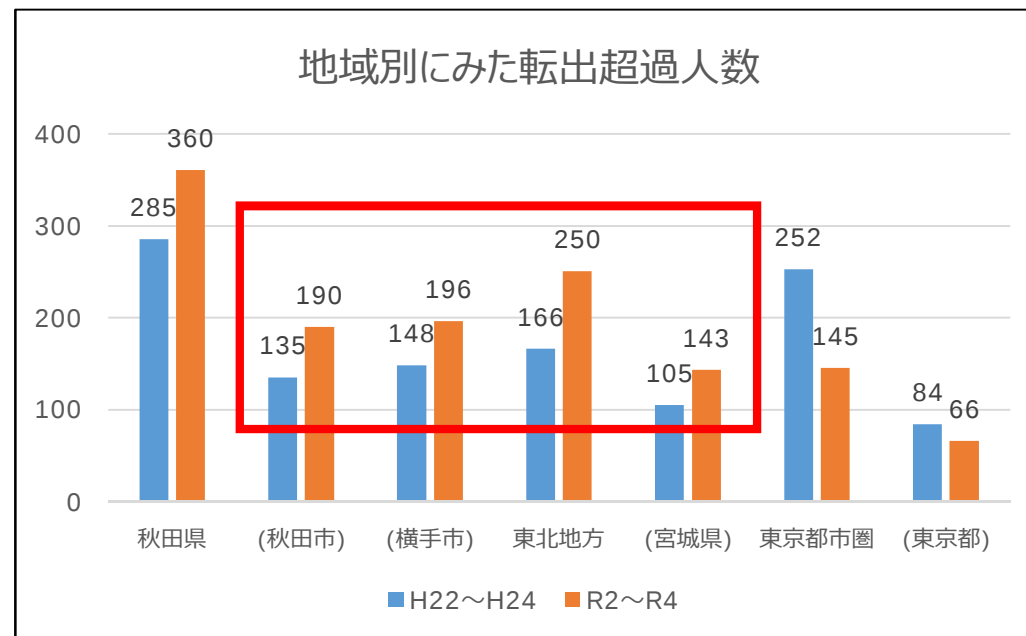
人口減少を抑える
まちづくり

社会減対策

10年間で転出の傾向の変化(H22～H24→R2～R4)



出典：湯沢市「住民基本台帳年報」



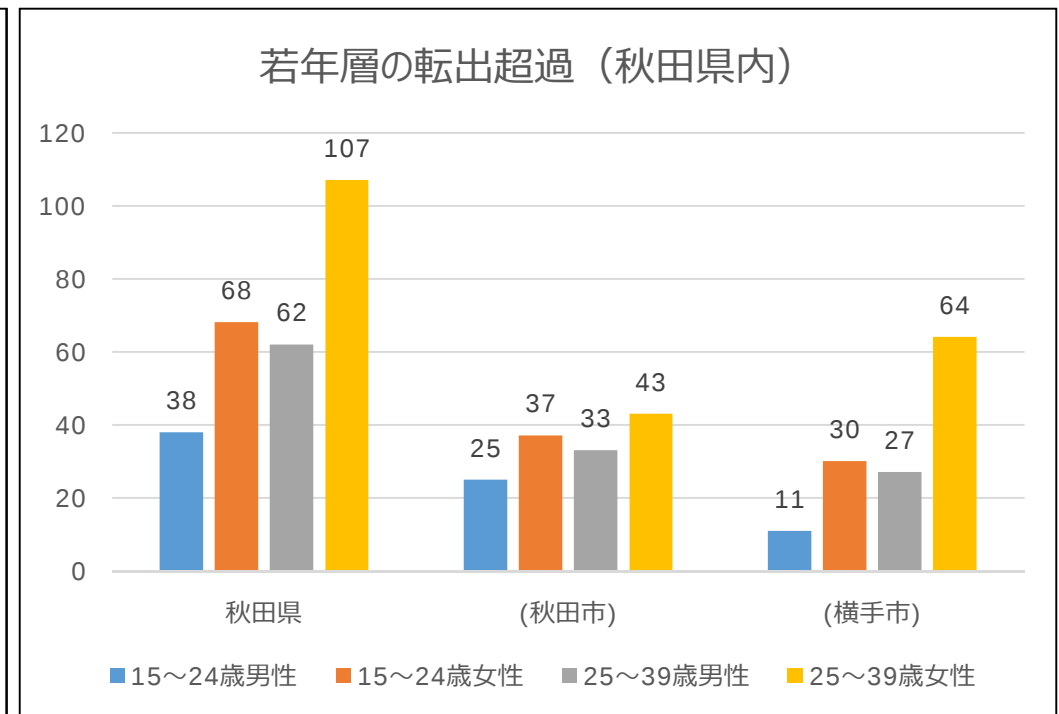
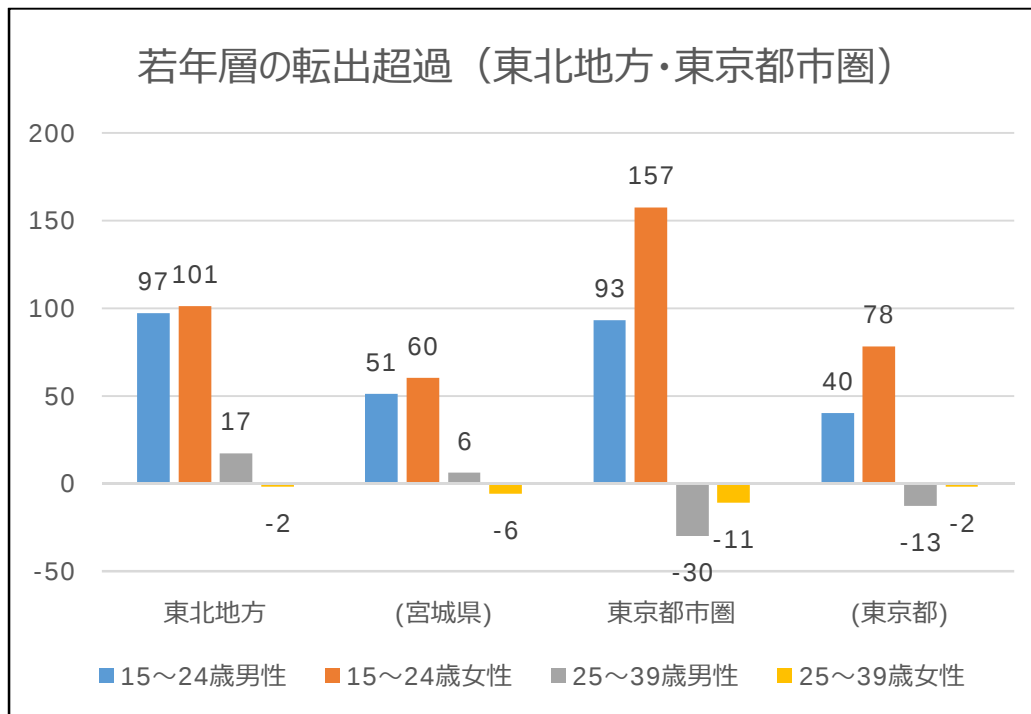
※東北地方は秋田県を除く5県の合計。東京都市圏は東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の1都3県。

出典：内閣官房提供「住民基本台帳の人口移動データに基づく特別集計表」

- この10年間で、男性の転出超過人数は減少しているが、女性の転出超過人数は増加している。
- 10年前は東京都市圏への転出超過人数が多かったが、県内(主に秋田市と横手市)及び東北地方(主に宮城県)への転出超過人数がこの10年で増加している。
- また、高校生アンケートの結果を見ても、10年前のアンケートに比べて、将来「地元」に住みたいと考えている生徒の割合が大きく減少し、「東北地方」に住みたいと考えている生徒の割合が大きく増加している。

「地元」...25.8%→17.7% 「東北地方」...19.8%→27.5%

若年層(15～39歳)の転出の傾向(R2～R4)



出典：内閣官房提供「住民基本台帳の人口移動データに基づく特別集計表」

- ・ 若年層(15～39歳)を15～24歳(進学や新卒就職のステージ)と25～39歳(転職や結婚等のステージ)の2つの年齢層に分け、男女別に直近の転出の傾向をまとめた。
- ・ 東北地方・東京都市圏については、転出超過の大半を占めているのが15～24歳であることから、両者ともに主な転出理由は進学や新卒就職であるといえる。特に東京都市圏については、女性の転出超過が顕著である。
- ・ 他方、秋田県内については、20代後半から30代の転出超過も多い。つまり、いったん湯沢市を「生活の場」として選択してくれたにもかかわらず転出してしまう人は、県内(秋田市・横手市)への転出が多いことがわかる。
- ・ 秋田県内への転出超過は、15～24歳・25～39歳のいずれも男性よりも女性の方が多くなっている。特に横手市への転出超過は明らかに女性の方が多い。

若者の市内定着率の県内比較(1995→2015、2000→2020)

	1995年の10～14歳人口を1としたときの 2015年の30～34歳人口（定着率）				2000年の10～14歳人口を1としたときの 2020年の30～34歳人口（定着率）					
	男性		女性		男性			女性		
1	秋田市	78.0%	秋田市	83.9%	秋田市	78.4%	0.4%	秋田市	84.1%	0.2%
2	潟上市	69.6%	潟上市	70.1%	潟上市	71.5%	1.9%	潟上市	70.4%	0.3%
3	由利本荘市	66.7%	大仙市	67.7%	大館市	65.0%	△0.7%	大仙市	63.7%	△4.0%
4	大館市	65.7%	由利本荘市	64.2%	大仙市	63.1%	△1.7%	大館市	61.2%	△0.4%
5	大仙市	64.8%	横手市	62.6%	由利本荘市	62.5%	△4.2%	横手市	60.7%	△1.9%
6	横手市	60.7%	大館市	61.6%	横手市	56.7%	△4.0%	由利本荘市	58.6%	△5.6%
7	にかほ市	58.8%	能代市	57.3%	にかほ市	54.1%	△4.7%	能代市	54.4%	△2.9%
8	仙北市	57.2%	仙北市	56.8%	鹿角市	54.0%	0.2%	仙北市	51.3%	△5.5%
9	能代市	56.6%	にかほ市	54.4%	能代市	53.9%	△2.7%	鹿角市	50.5%	△1.5%
10	湯沢市	55.0%	湯沢市	53.5%	北秋田市	51.5%	△0.4%	北秋田市	48.2%	2.8%
11	鹿角市	53.8%	鹿角市	52.0%	仙北市	51.2%	△6.0%	にかほ市	47.2%	△6.3%
12	北秋田市	51.9%	男鹿市	45.9%	湯沢市	50.1%	△4.9%	湯沢市	45.3%	△8.2%
13	男鹿市	47.5%	北秋田市	45.4%	男鹿市	41.8%	△5.7%	男鹿市	39.0%	△6.9%
	市平均	60.9%	市平均	60.2%	市平均	58.6%	△2.3%	市平均	57.4%	△2.8%

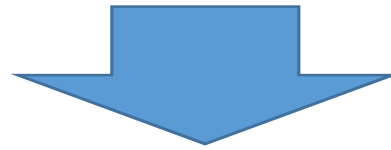
出典：内閣官房・内閣府「地域少子化・働き方指標」

※市内定着率・・・「ある年の10～14歳人口を1とした場合の、20年後の30～34歳人口の割合」と定義する。市外から流入した人口も含まれるため完全ではないが、大人になって市内に残った若者の割合のおおよその目安となると考えられる。

- 1995年の10～14歳世代と2000年の10～14歳世代とを比較すると、男女ともに県内市平均を大きく上回って市内定着率が悪化している。特に女性の悪化傾向は県内市でワーストとなっている。

- ① 若い女性の人口流出の深刻化
- ② 県内・東北地方への転出増
- ③ 市内に定着せず県内(秋田市・横手市)へ移る若者(特に女性)

- ① 若い女性の人口流出の深刻化
- ② 県内・東北地方への転出増
- ③ 市内に定着せず県内(秋田市・横手市)へ移る若者(特に女性)

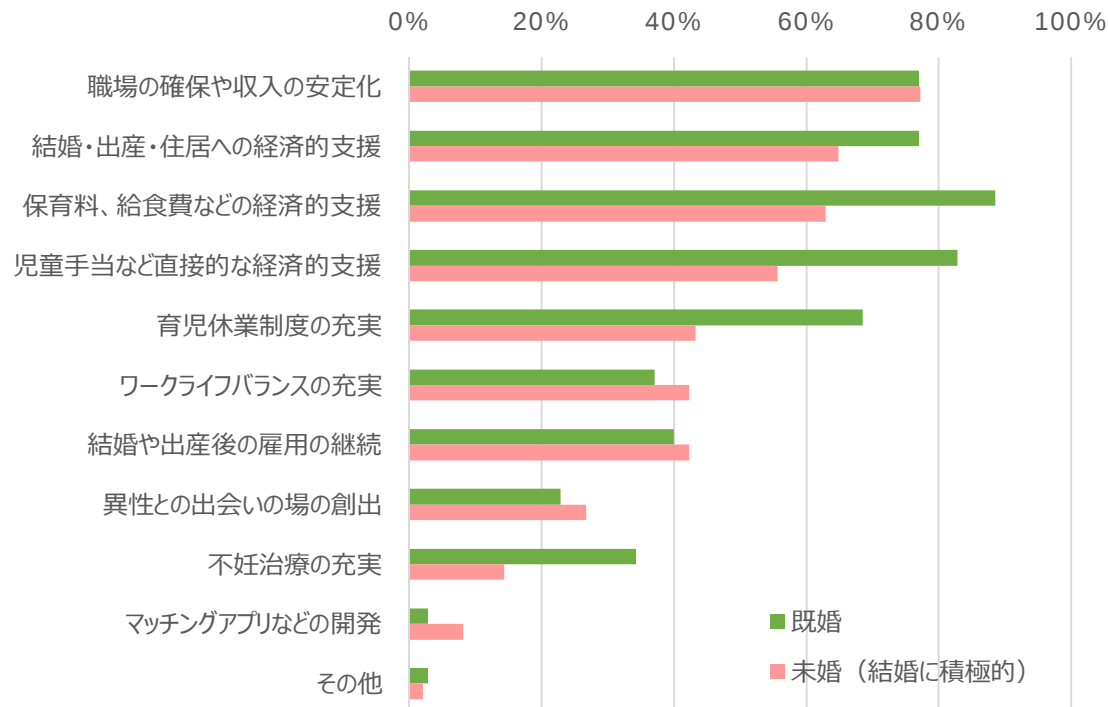


- 1. 「若者や女性」から「若い女性」が輝くまちづくりへ
- 2. 湯沢市に近い県内・東北地方の学生へのアプローチの強化
- 3. 湯沢市を選んできた人の定着促進

自然減対策

子ども・若者育成支援にかかるアンケート

少子化対策に必要なと思う支援策



18歳～30歳の市民に対するアンケート

- 令和6年2月実施
- 18歳～30歳の市民1,074人（無作為抽出）を対象→245人から回答
- 「今後の少子化の流れを抑制するために、行政はどのような支援を行うべきだと思いますか。（複数回答可）」
- 回答者245人のうち、既婚者37人、及び未婚者のうち「できるだけ早く結婚したい」または「いずれは結婚したい」と回答した100人、計137人の回答を抽出。

- ・ 既婚者・未婚者ともに経済的な支援が必要と考える人が多く、既婚者は特に「子どもを養うための支援」（保育料、給食費、児童手当等）が必要と考える傾向が強い。
- ・ 経済面以外の支援では、「働くことへの支援」（職場の確保・収入の安定化、雇用の継続）が必要と考える人が多い。
- ・ 既婚者は未婚者に比べて、「妊娠・出産への支援」（育児休業、不妊治療）が必要と考える人が多い。
- ・ 「異性との出会いへの支援」（出会いの場の創出、マッチングアプリなどの開発）が必要と考えている人は少ない。

経済・雇用の状況と結婚・出産の状況との相関関係

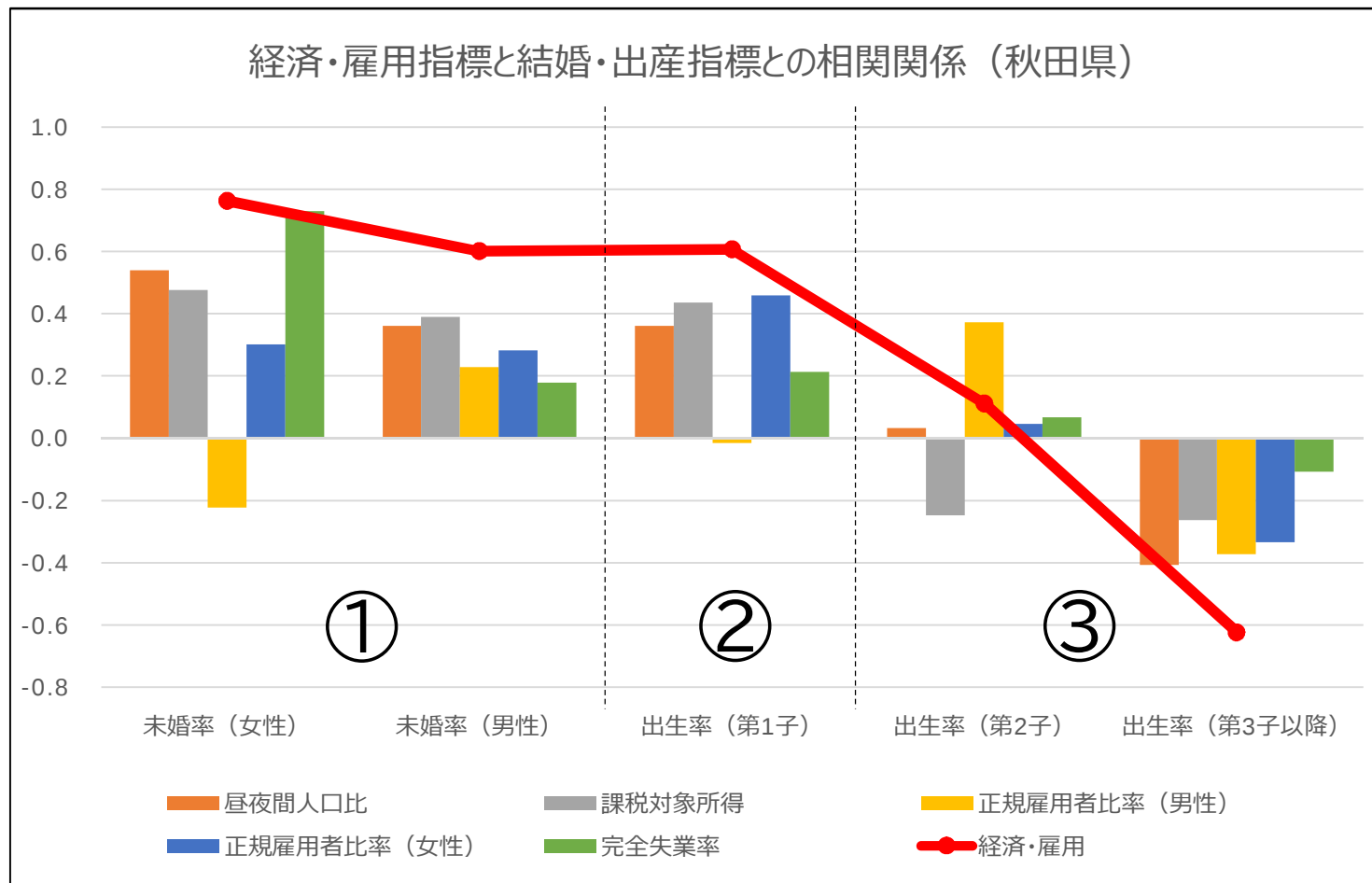
地域の実情に合わせた少子化対策を検討するため、全国の各市区町村の経済・雇用に関する指標と、結婚・出産に関する指標を調査し、それぞれの相関関係を算出した。

- 調査対象は、全国1,741の市区町村のうち、結婚・出産に関する指標が全て公表されている1,686市区町村とした。
- 各指標について、1,686市区町村の偏差値をそれぞれ求め、偏差値間の相関関係を算出した。
- 分析の基礎とした指標は、内閣官房・内閣府が提供している「地域評価指標のひな型(2023年3月改訂版)」を参考に、以下のとおりとした。<https://www.chisou.go.jp/sousei/about/chiikiapproach/datasheet/index.html>

経済・雇用に関する指標		結婚・出産に関する指標	
指標名	時点	指標名	時点
① 昼夜間人口比	R2	① 未婚率(女性・男性)(25～39歳)	R2
② 課税対象所得(納税義務者1人当たり)	R3	② 平均初婚年齢(女性・男性)	H30
③ 男女別正規雇用者比率(男性)	R2	③ 合計特殊出生率	H25～H29
④ 男女別正規雇用者比率(女性)	R2	④ 合計特殊出生率(第1子)	H25～H29
⑤ 完全失業率(20～44歳)	R2	⑤ 合計特殊出生率内訳(第2子)	H25～H29
		⑥ 合計特殊出生率内訳(第3子以降)	H25～H29

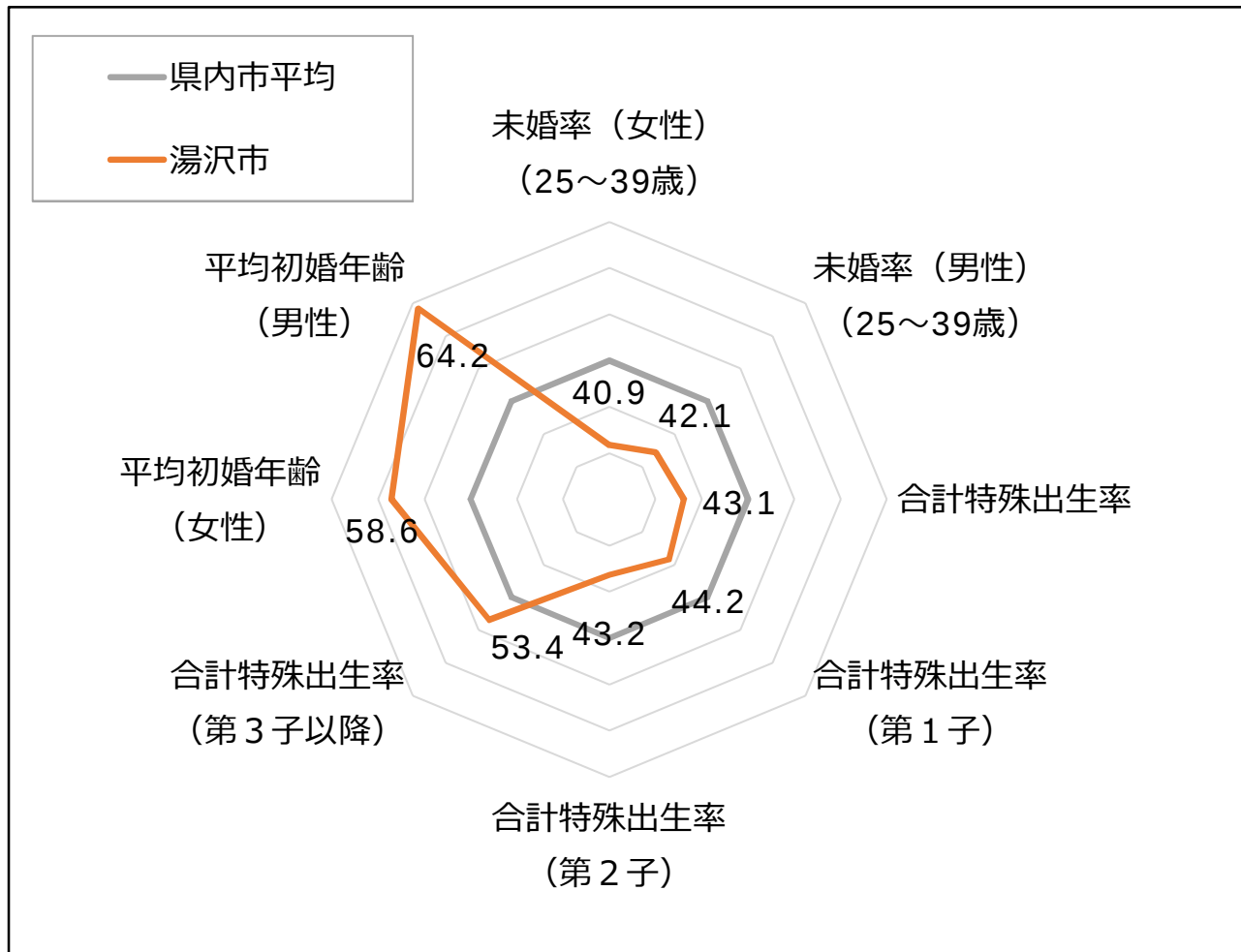
出典：厚生労働省「人口動態統計特殊報告」、内閣官房・内閣府「地域少子化・働き方指標」、総務省「国勢調査－従業地・通学地による人口・就業状態等集計」、総務省「市町村税課税状況等の調」、総務省「国勢調査－就業状態等基本集計」

経済・雇用の状況と結婚・出産の状況との相関関係



- 結婚・出産に関するライフステージを、①結婚、②第1子の出産、③第2子以降の出産に分類すると、経済・雇用指標との相関が強いのは①②までで、③は相関が弱くなる（第3子以降は負の相関となる）。
- 金銭的な負担は①→②→③と増していくことを考えると、③についても経済・雇用指標との相関が強くなりそうだが、実際はそうはなっていない。
- 同様の傾向は全国的に見られるため、経済・雇用の状況が良い市区町村は、結婚や第1子の出産は多くなる傾向にあるが、第2子以降は関連性が弱くなり、第3子以降はむしろ負の相関となる傾向は、確からしいと思われる。

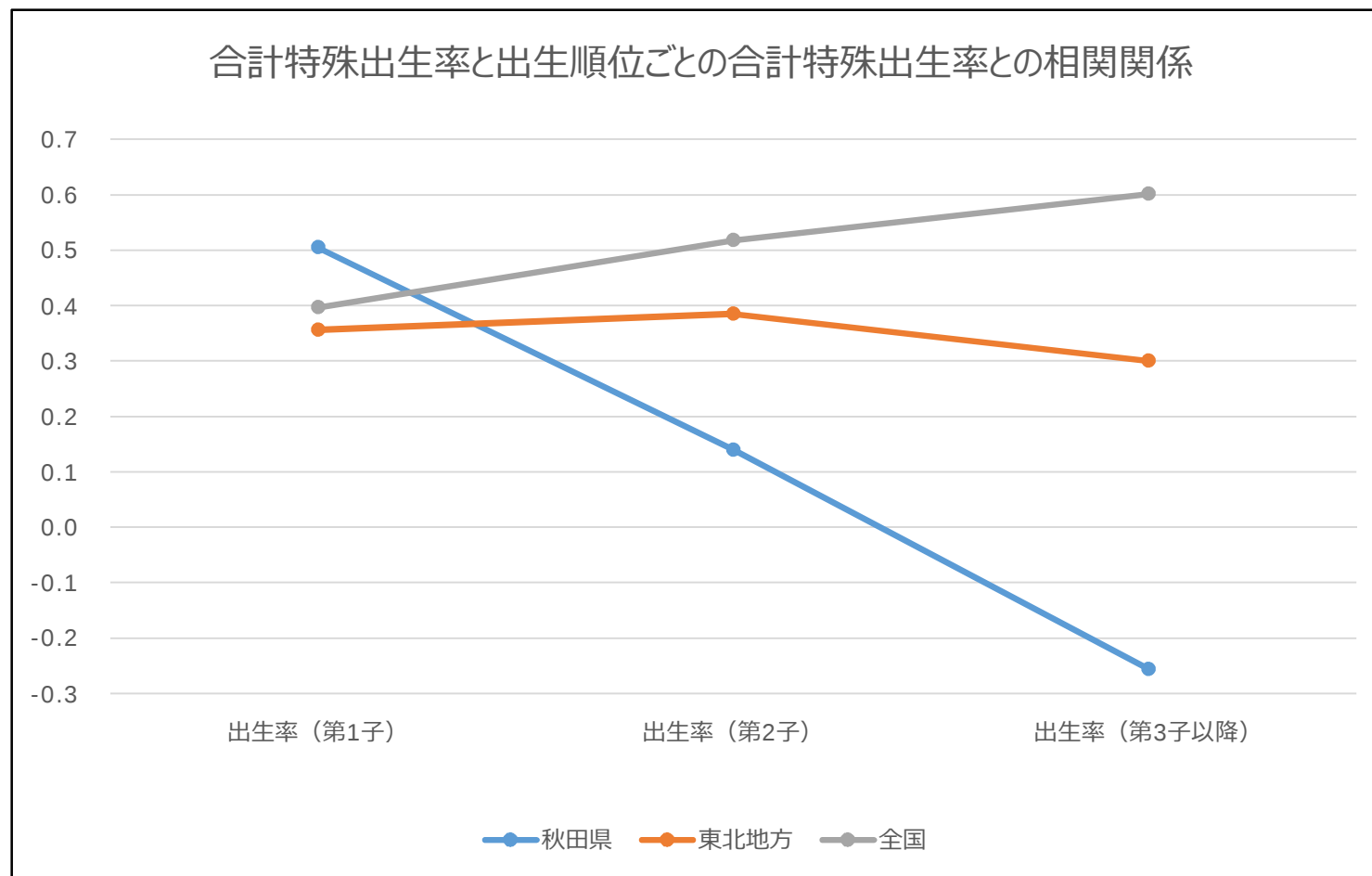
秋田県や湯沢市の結婚・出産の状況の特徴



- 未婚率は、逆向きの偏差値としている（未婚率が低い＝たくさん結婚しているほど偏差値が高い）
- 平均初婚年齢は、逆向きの偏差値としている（平均初婚年齢が低い＝早く結婚しているほど偏差値が高い）

- 湯沢市を県内他市と比較すると、平均初婚年齢と第3子以降の出生率の偏差値は高いが、それ以外の指標については低くなっている。すなわち、①結婚する年齢は早い、結婚している男女は少ない、②第3子以降は多いが、生まれてくる子ども全体の数は少ない、という特徴がみられる。

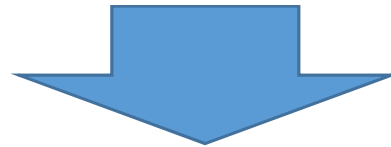
秋田県や湯沢市の結婚・出産の状況の特徴



- 全国的にみると、出生順位によって全体の合計特殊出生率との相関関係に大きな差はない。
- 秋田県の特徴として、第1子の合計特殊出生率が高い市町村ほど全体の合計特殊出生率が高い傾向にある。すなわち、1人の女性がたくさん出産している市町村ではなく、たくさんの女性が1人目の子どもを出産している市町村で子どもがたくさん生まれている傾向にあるといえる。

- ① 結婚から子育てまでを通して**経済的支援**が必要と考える人が多い。
- ② 経済的支援以外では、「**働くことへの支援**」が必要と考える人も多い。
- ③ 既婚者は「**妊娠・出産への支援**」が必要と考える人が多い。
- ④ 経済・雇用の状況との相関が強いのは、**結婚・第1子のお産**まで。
- ⑤ 湯沢市は、第3子以降は多いが、**生まれてくる子ども全体の数は少ない**。
- ⑥ 秋田県内では、**第1子の出生率**が高い市町村ほど全体の出生率が高い傾向にある

- ① 結婚から子育てまでを通して**経済的支援**が必要と考える人が多い。
- ② 経済的支援以外では、「**働くことへの支援**」が必要と考える人も多い。
- ③ 既婚者は「**妊娠・出産への支援**」が必要と考える人が多い。
- ④ 経済・雇用の状況との相関が強いのは、**結婚・第1子の出産**まで。
- ⑤ 湯沢市は、第3子以降は多いが、**生まれてくる子ども全体の数は少ない**。
- ⑥ 秋田県内では、**第1子の出生率**が高い市町村ほど全体の出生率が高い傾向にある



- 1. 湯沢市で出産する女性を増やす「**結婚**」・「**第1子**」からの支援の充実
- 2. 「産みたい」に寄り添う「**妊娠・出産への支援**」
- 3. 「働きたい」を叶える「**働くことへの支援**」

人口減少を抑えるまちづくりの骨子(案)

未来を創る「若者」を応援するまちづくり

移住・定住

「たくさんの仲間がいる」まち

<取組例>

- ◆ 東京圏からの移住・就職支援
- ◆ 東北地方の学生へのアプローチ(DX)
- ◆ 湯沢市を選んでくれた若者の県内転出抑制

出会い・結婚

「大事な家族をつくれる」まち

<取組例>

- ◆ 結婚にかかる費用への支援の充実
- ◆ 若者が集まるイベントへの助成
- ◆ 企業間や官公庁の人材交流の推進

妊娠・出産

「『子どもがほしい』に寄り添う」まち

<取組例>

- ◆ 不妊治療の充実
- ◆ 出産を諦めない流産・死産へのケア
- ◆ 育児休業制度の充実
- ◆ 男性の家事・育児参加の支援

子育て・教育

「すべての子どもの笑顔を守れる」まち

<取組例>

- ◆ 第1子からの支援の充実
- ◆ 複合公共施設における子育て支援
- ◆ ふるさとを愛する子どもを育む教育の充実
- ◆ 教育DXの推進(DX)

ウェルビーイングな
まちづくり

アンケートによる市民の「ウェルビーイング」の把握

市民満足度調査、及び市内に所在する高校の生徒に対するアンケート調査により、「幸せにとって重要な事項」や「今後に不安を感じる事項」を把握し、市民のウェルビーイングのために取り組むべき施策を考える。

No.	事項名	No.	事項名	No.	事項名
◆生活環境		10	子育てしやすい環境	19	困りごとを相談できる人
1	医療体制の充実	11	教育環境	20	権利の尊重
2	福祉の充実	12	デジタル生活	21	若者・女性活躍
3	買物・飲食の利便性	13	まちなみ・公共空間の良好さ	22	市外との交流
4	住宅環境の充実	14	自然の豊かさ	◆自分らしい生き方	
5	移動・交通の利便性	15	環境共生	23	心身の健康状態
6	遊び・娯楽の充実	16	防災対策の安全性	24	伝統・文化に触れる環境
7	所得・家計の安定	17	事故・犯罪対策の安全性	25	生涯学習・スポーツの環境
8	地域産業の活力	◆地域の人間関係		26	やりたい仕事ができる環境
9	観光・誘客の魅力	18	地域とのつながり	27	自由な時間・余暇の充実

※設問内容は、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートの「地域幸福度(Well-Being)指標」の24の主観評価指標の内容をベースに、市の施策分野を考慮した上で27項目とした。

市民満足度調査の結果

【設問】あなたの幸せにとって、特に重要だと思う事項はどれですか。(5つまで)

順位	番号	選択項目	回答数	割合
1	7	十分な所得があり、家計が安定していること	247	51.1%
2	23	心身ともに健康な状態であること	228	47.2%
3	1	医療体制が充実していること	220	45.5%
4	3	日常の買物や飲食が便利であること	179	37.1%
5	5	移動・交通の便がよいこと	139	28.8%

【設問】今後の暮らしについて、あなたが特に不安を感じる事項はどれですか。(5つまで)

順位	番号	選択項目	回答数	割合
1	1	医療体制の不足	251	52.0%
2	7	所得の減少、家計の不安定さ	236	48.9%
3	5	移動・交通の不便さ	204	42.2%
4	23	心身の健康状態の悪化	180	37.3%
5	3	日常の買物や飲食の不便さ	120	24.8%

- 「幸せにとって重要な事項」、「今後に不安を感じる事項」とともに上位5項目は共通していた。
→「医療体制」、「買物・飲食」、「移動・交通」、「所得・家計」、「心身の健康」の5項目
- これらの項目は、全世代的に高い回答割合となっていた。

市民満足度調査の結果(若年層)

【設問】あなたの幸せにとって、特に重要だと思う事項はどれですか。(5つまで)

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代	日常の買物や飲食が便利であること 48.1%	移動・交通の便がよいこと 48.1%	遊びや娯楽が充実していること 48.1%	十分な所得があり、家計が安定していること 40.7%	自然の景観や恵みが豊かなこと 33.3%
20歳代	十分な所得があり、家計が安定していること 57.5%	日常の買物や飲食が便利であること 45.0%	自由な時間があり、余暇が充実していること 42.5%	移動・交通の便がよいこと 37.5%	遊びや娯楽が充実していること 37.5%
30歳代	十分な所得があり、家計が安定していること 60.9%	医療体制が充実していること 46.4%	日常の買物や飲食が便利であること 40.6%	子育てしやすい環境が整っていること 39.1%	心身ともに健康な状態であること 36.2%

【設問】今後の暮らしについて、あなたが特に不安を感じる事項はどれですか。(5つまで)

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代	移動・交通の不便さ 59.3%	遊びや娯楽の不足 59.3%	日常の買物や飲食の不便さ 40.7%	自分のやりたい仕事ができる環境の不足 29.6%	医療体制の不足 22.2%
20歳代	所得の減少、家計の不安定さ 45.0%	医療体制の不足 42.5%	移動・交通の不便さ 37.5%	遊びや娯楽の不足 30.0%	災害対策の不足、危険性の増大 22.5%
30歳代	医療体制の不足 59.4%	所得の減少、家計の不安定さ 59.4%	移動・交通の不便さ 33.3%	遊びや娯楽の不足 30.4%	心身の健康状態の悪化 30.4%

高校生アンケートの結果

【設問】あなたは将来仕事とプライベートのどちらを大切にしたいと思いますか。

選択肢	回答数	割合
仕事	40	13.1%
プライベート	180	59.0%
どちらともいえない	83	27.2%

【設問】あなたの今後の人生にとって、特に重要だと思う事項はどれですか。(5つまで)

選択肢	回答数	割合
十分な所得があり、家計が安定していること	153	50.2%
医療体制が充実していること	117	38.4%
遊びや娯楽が充実していること	98	32.1%
心身ともに健康な状態であること	97	31.8%
自由な時間があり、余暇が充実していること	96	31.5%

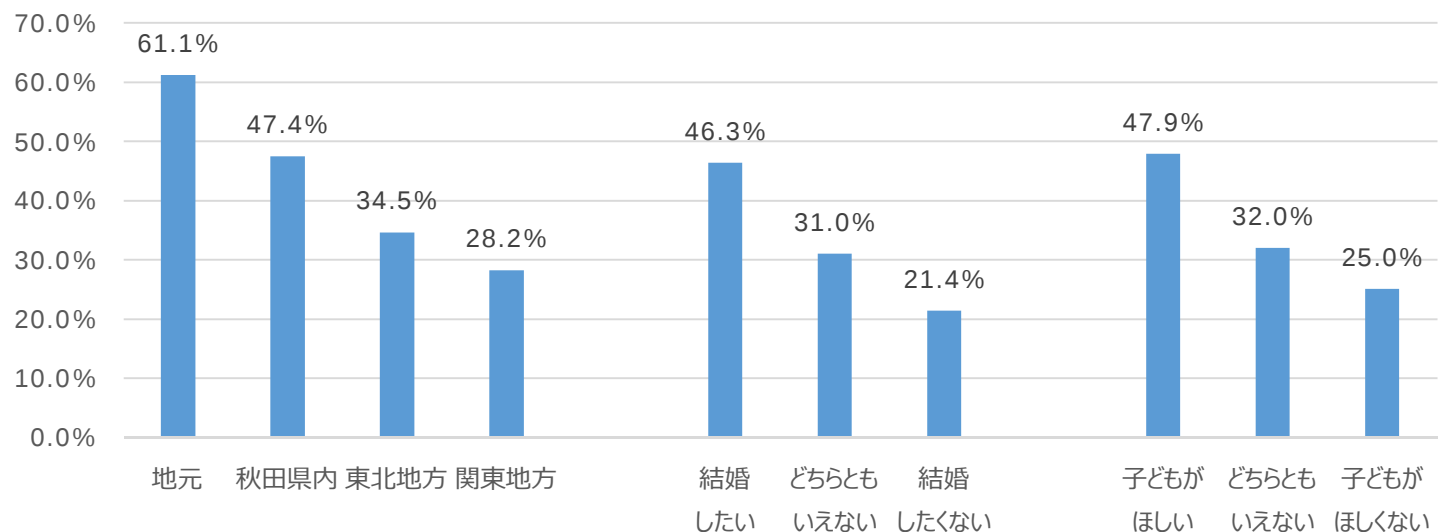
- ・ 高校生では、「仕事」よりも「プライベート」を大切にしたいと思っている割合が圧倒的に高い。
- ・ 若年層では、「遊び・娯楽」、「自由な時間・余暇」が重要視されている傾向にある。
→若年層は、「仕事での自己実現」よりも「私生活の充実」を重要視している。

高校生アンケートの結果

【設問】あなたが毎日のくらしに幸せを感じるのはどういうときですか。(3つまで)

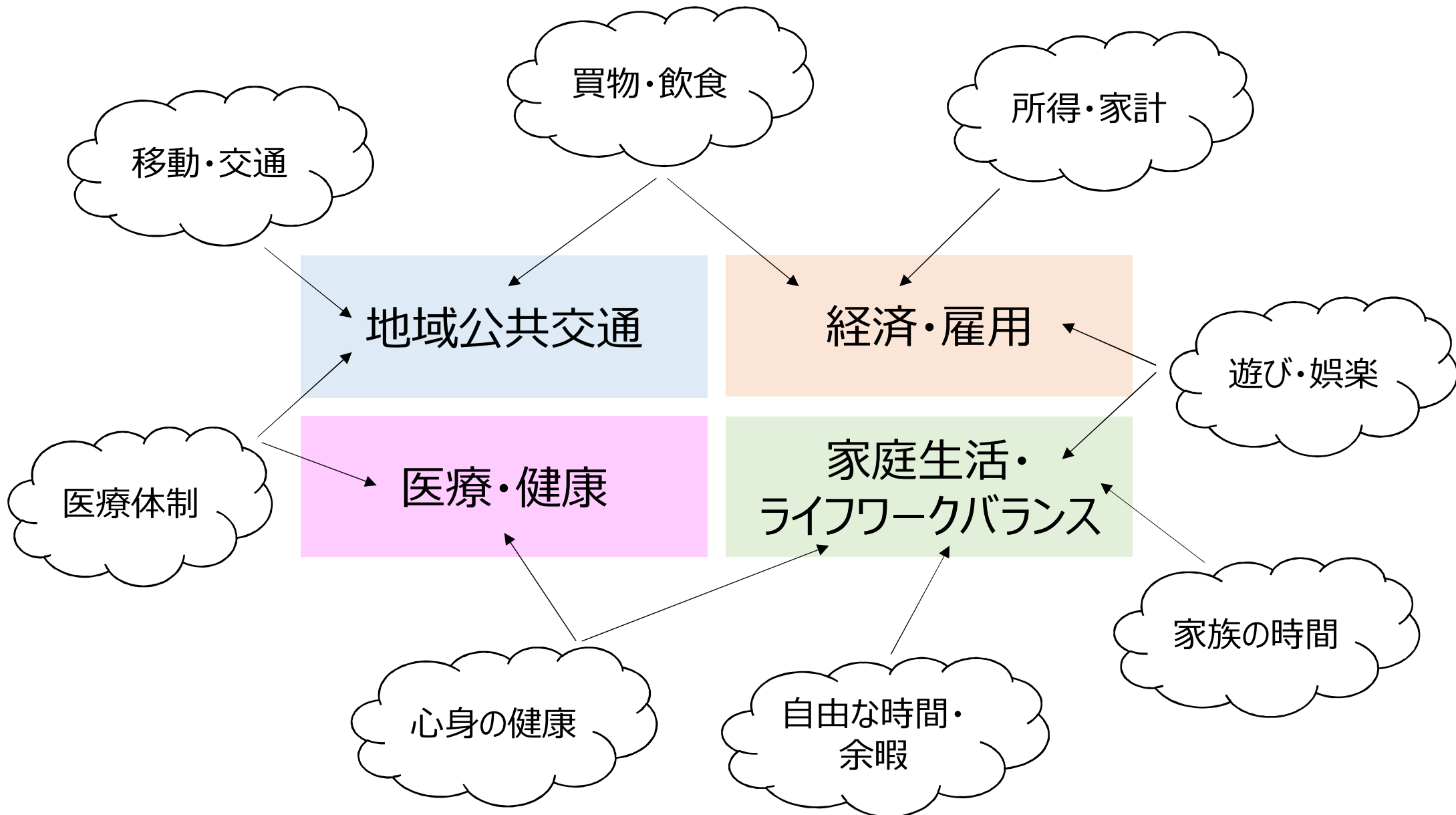
選択肢	全体	地元	秋田県内	東北地方	関東地方	結婚 したい	どちらとも いえない	結婚 したくない	子どもが ほしい	どちらとも いえない	子どもが ほしくない
家族と過ごしているとき	39.3%	61.1%	47.4%	34.5%	28.2%	46.3%	31.0%	21.4%	47.9%	32.0%	25.0%
友だちと過ごしているとき	55.1%	50.0%	63.2%	60.7%	50.0%	62.8%	47.6%	28.6%	62.6%	51.5%	35.0%
勉強をしているとき	3.9%	5.6%	1.8%	1.2%	7.7%	3.7%	4.8%	3.6%	3.7%	5.2%	2.5%
家でゆっくりしているとき	46.2%	48.1%	45.6%	42.9%	55.1%	44.1%	54.8%	39.3%	42.9%	53.6%	45.0%
家で自分の好きなことをしているとき	53.8%	48.1%	52.6%	59.5%	51.3%	47.9%	61.9%	67.9%	47.2%	58.8%	67.5%
家の外で自分の好きなことをしているとき	7.2%	5.6%	5.3%	9.5%	6.4%	5.9%	9.5%	10.7%	5.5%	9.3%	10.0%
買い物や食事に出かけるとき	12.8%	11.1%	12.3%	9.5%	16.7%	12.2%	10.7%	21.4%	11.7%	13.4%	15.0%
遊びや旅行に出かけるとき	32.8%	20.4%	22.8%	41.7%	37.2%	32.4%	31.0%	46.4%	34.4%	25.8%	47.5%
地域の行事やお祭りに参加しているとき	5.9%	5.6%	10.5%	3.6%	2.6%	6.9%	3.6%	7.1%	6.1%	5.2%	7.5%
習い事やスポーツ、部活動をしているとき	17.0%	13.0%	15.8%	19.0%	17.9%	19.1%	16.7%	7.1%	19.0%	18.6%	7.5%
ボランティアや社会貢献活動をしているとき	0.7%	1.9%	1.8%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	2.5%
アルバイトなどの仕事をしているとき	0.3%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%

「家族と過ごしているとき」に幸せを感じる生徒の割合



- ・「地元に住みたい」、「結婚したい」、「子どもがほしい」と考えている生徒は、「家族と過ごしているとき」に幸せを感じている割合が多い。
- ・家族との生活に幸せを感じるにより、「将来家族の近くで暮らしたい」と考えたり、「自分も家族を持ちたい」と思うようになる可能性が高いと考えられる。

ウェルビーイングなまちづくりの骨子(案)



ウェルビーイングなまちづくりの骨子(案)

一人ひとりの「幸せ」に寄り添うまちづくり

地域公共交通

「誰でも安全・安心に移動ができる」まち

<取組例>

- ◆ 公共交通のDXによる通院、買い物支援（DX）
- ◆ 運行状況の見える化（DX）
- ◆ 公共交通拠点、ネットワークの再編

経済・雇用

「ここで稼いで、ここで使う」まち

<取組例>

- ◆ デジタル地域通貨の導入（DX）
- ◆ 複合公共施設を契機とした中心市街地活性化
- ◆ 企業誘致の推進
- ◆ 女性の就職・職場復帰の支援

医療・健康

「心も体も元気でいられる」まち

<取組例>

- ◆ いつでも、どこでも医療を受けられる環境の整備（DX）
- ◆ 個人最適な健康増進対策（DX）
- ◆ 子どもを守る小児医療の充実

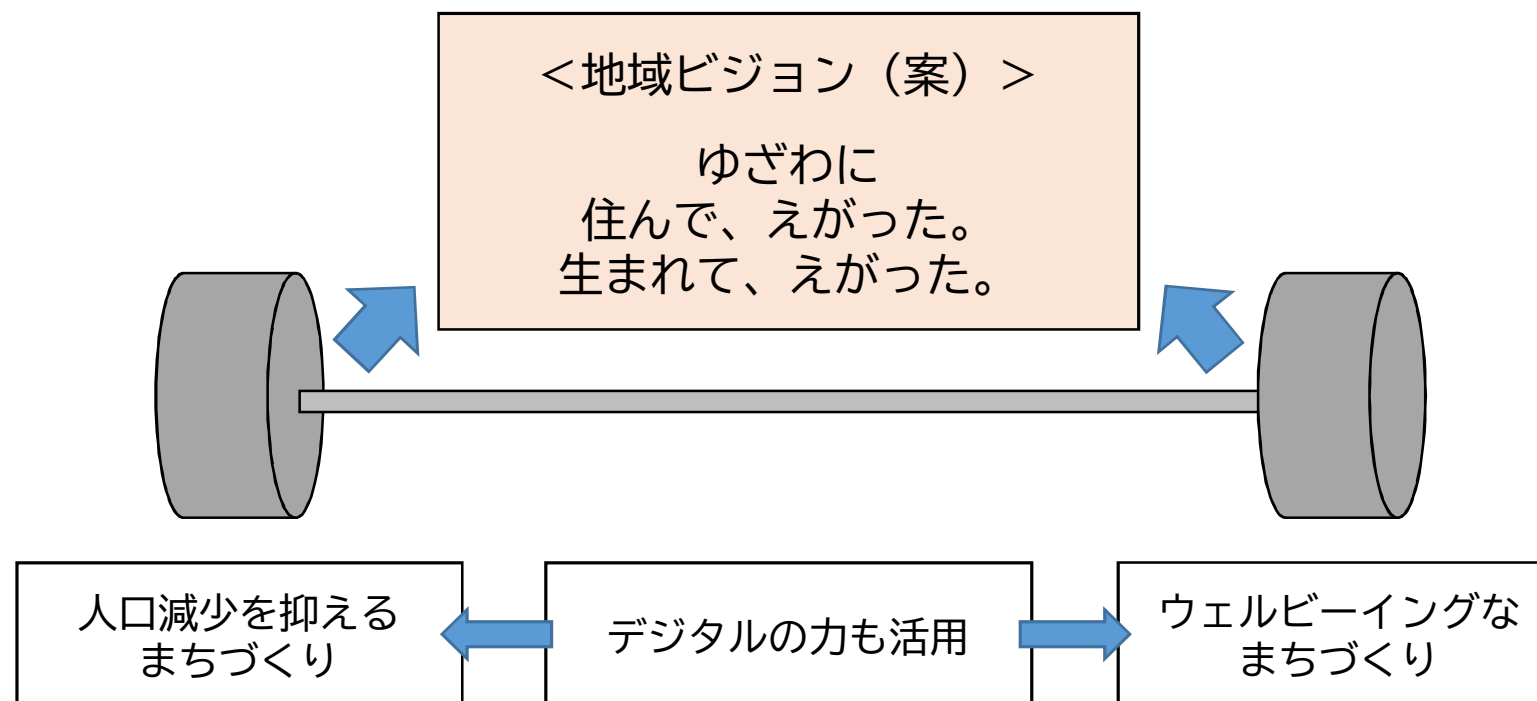
家庭生活・ライフワークバランス

「楽しく自分らしく生きられる」まち

<取組例>

- ◆ 皆で創り楽しむイベント（市民マルシェ等）
- ◆ eスポーツの推進（DX）
- ◆ 家庭を大切にするリモートワーク（DX）
- ◆ 週休三日制の試験的導入

次期総合戦略の策定方針（案）



未来を創る「若者」を応援するまちづくり

- 【移住・定住】 「たくさんの仲間がいる」まち
- 【出会い・結婚】 「大事な家族をつくれる」まち
- 【妊娠・出産】 「『子どもがほしい』に寄り添う」まち
- 【子育て・教育】 「すべての子どもの笑顔を守れる」まち

一人ひとりの「幸せ」に寄り添うまちづくり

- 【地域公共交通】 「誰でも安心・安全に移動ができる」まち
- 【経済・雇用】 「ここで稼いで、ここで使う」まち
- 【医療・健康】 「心も体も元気でいられる」まち
- 【家庭生活・ライフワークバランス】
「楽しく自分らしく生きられるまち」

次期湯沢市総合戦略策定スケジュール（案）

作成者：総務部企画課企画政策班

作成日：令和6年7月16日

★ …市民意見の反映のための取組

…委託

…庁内会議等

…庁外会議等

…その他準備等

項目	概要等	実施日等	令和6年度																																			
			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
人口ビジョン改訂																																						
基礎データの整理、分析等																																						
骨子作成																																						
素案作成																																						
★R6市民満足度調査	幸福度についての質問を設ける	4月～5月実施																																				
★高校3年生へのアンケート	幸福度や将来についての質問を設ける	5月実施																																				
R5実績の取りまとめ、R2～R5の検証																																						
次期総合戦略策定方針の検討	各種データ、アンケート調査等を参考とする																																					
次期総合戦略策定方針についての庁内打合せ	まちづくり協働課、子ども未来課、企画課	6/14実施																																				
第1回総合戦略推進本部会議	進捗報告、策定方針(案)等	7/24開催																																				
若手職員研修会	若手職員を集めて現状説明と施策の検討	7/25開催																																				
第1回地方創生推進会議	進捗報告、策定方針(案)等	8/1開催																																				
9月議会全員協議会	進捗報告	8/16開催																																				
第1回専門部会	方針案、アンケート・研修会結果等の説明、意見交換等																																					
市議会会派説明（1回目）	方針案等の説明、意見交換																																					
★市民ワークショップ	一般市民（若者）、推進会議委員、若女協議会委員	9/23開催																																				
第2回専門部会	会派説明、ワークショップ結果等の説明、意見交換等																																					
次期総合戦略素案作成																																						
第2回総合戦略推進本部会議	次期総合戦略・人口ビジョン素案																																					
第2回地方創生推進会議	次期総合戦略・人口ビジョン素案																																					
市議会会派説明（2回目）	次期総合戦略・人口ビジョン素案についての説明、意見交換等																																					
12月議会全員協議会	次期総合戦略・人口ビジョン素案																																					
★パブリックコメント	12月上旬～中旬の20日程度。12月号広報に掲載																																					
次期総合戦略最終案作成																																						
第3回総合戦略推進本部会議	次期総合戦略・人口ビジョン最終案																																					
第3回地方創生推進会議	次期総合戦略・人口ビジョン最終案																																					
3月議会全員協議会	次期総合戦略・人口ビジョン最終案																																					
公表	広報、市HP、SNS等による周知																																					

※12月議会前の全協に素案を提出する最短スケジュールとしているが、12月議会会期内全協や3月議会前の全協への提出も想定している。

第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

1. 改訂理由

本市が実施する「移住支援事業補助金」、及び「地方就職学生支援事業補助金」については、デジタル田園都市国家構想交付金を活用する事業であり、地方版総合戦略への掲載が必要であることから、これらの事業について第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略へ掲載するため。

2. 改訂内容

別紙のとおり。

3. 改訂日

令和6年4月1日

第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略

～ 未来を育み、共に輝く地域を目指して ～

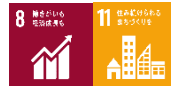


2020年3月

2024年4月改訂

秋田県湯沢市

(2) 移住・定住施策の推進・強化



移住・定住施策の積極的な推進

【実施事業】

- ・ふるさと交流促進事業（ゆざわローカルアカデミー）をきっかけとした段階的な移住支援

※ 地方に関心がある首都圏在住者を対象とした、通年の講座等を実施することにより、地域について主体的に考え、継続して地域づくりに関わる関係人口を構築する。

- ・秋田県と連携した移住・就業支援事業による支援金の交付

※ 第2期秋田県移住・就業支援事業の要件を満たす者に対し支援金を交付することで、東京圏から本市への移住・就職を促進する。

【実施スケジュール】

移住・定住施策の積極的な推進		R2	R3	R4	R5	R6
	ふるさと交流促進事業実施（ゆざわローカルアカデミー）	→	→	→	→	→
	参加者コミュニティの構築（継続した関わり）	→	→	→	→	→
	地域内の受入体制の強化（関係案内人・案内所）	→	→	→	→	→
	受け皿となる中間支援組織の確立	→	→	→	→	→
	東京圏からの移住者に対する移住支援金の交付	→	→	→	→	→
	東京圏の大学生に対する地方就職支援金の交付					→
重要業績評価指標（K P I）		目標値				
	アカデミー参加者 → 40人	8	8	8	8	8



(3) テレワーク・ワーケーションの普及・促進

テレワーク・ワーケーション等の新たな働き方の提案

【実施事業】

- ・テレワーク・ワーケーションの推進

※ 都市部の企業等をターゲットに、本市の温泉等を活用したワーケーションの受け入れを推進。また、地域との関わりによる交流を促進することで、地域の活性化と継続した関係性を構築する。

- ・複業・兼業マッチング支援

※ 市内企業の人材確保が課題となる中、テレワーク・ワーケーションを行う方（外部人材）が持つ専門的スキルやノウハウの活用を目指した複業・兼業のマッチングを支援する。

【実施スケジュール】

テレワーク・ワーケーション等の新たな働き方の提案		R2	R3	R4	R5	R6
	ワーケーションアライアンスジャパン(WAJ)との連携による普及促進	→	→	→	→	→
	テレワーク・ワーケーション受け入れ環境整備		→	→		
	モニター受け入れ		→	→		
	運用開始		→	→	→	→
重要業績評価指標（K P I）		目標値				
	都市部からのワーケーション受け入れ企業 → 5社	1	1	1	1	1
	複業・兼業マッチング件数 → 10件	1	2	2	2	3

～ゆざわの若者で語り合おう!～

市民ワークショップ

日時 9月23日(月・振) 13:00-16:00

場所 湯沢市役所本庁舎2階会議室25・26

「ゆざわの未来」を考える

今から約25年後の2050年、国の推計では湯沢市の人口は2万人を下回ると予想されています。人口減少が加速する中で、これからのまちづくりは何をするべきか?どうあるべきか?ぜひこの機会にゆざわの未来を担う若者たちで話し合ってみませんか?

● ポイント

- ① 堅苦しくないリラックスした雰囲気の話し合いです。
- ② 専門知識や事前準備は不要です。
- ③ 託児室を開設します!子育て中の皆さんもぜひご参加ください。
※当日の急な対応はできませんので、事前にお申込みくださるようお願いします。

● 申込方法

同封の参加同意書に必要事項を記入の上、8月26日(月)までに返信用封筒にてご提出ください。(切手は不要です)

参加に同意いただいた方の中から20人程度を選出します。申込多数の場合は参加いただけない場合がありますのでご了承ください。

● 問合せ

湯沢市役所総務部企画課企画政策班
TEL:0183-73-2113



湯沢市人口ビジョン(H27策定)



第2期湯沢市まち・ひと・しごと
創生総合戦略(R2策定)



※ワークショップは一般公開で行います。また、記録のためビデオ又は写真撮影を行い、ワークショップの結果を報告書にとりまとめ公開します。